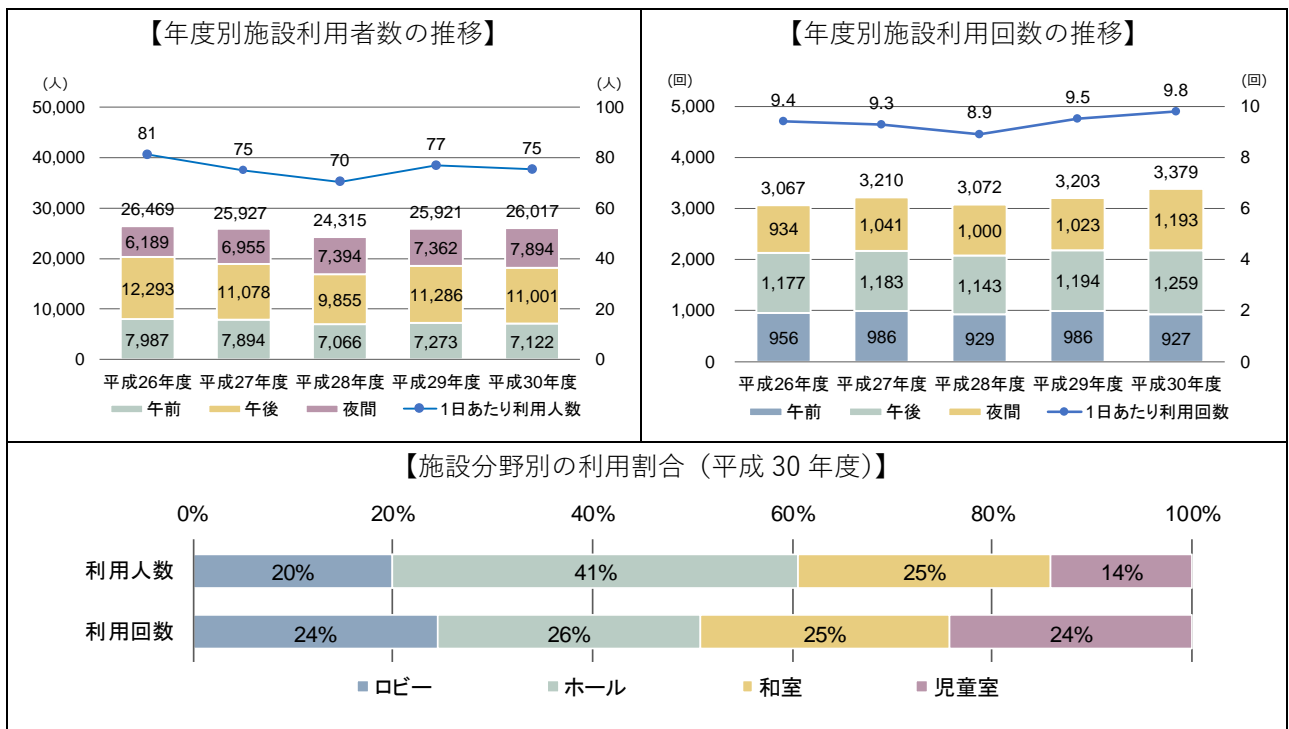


吉祥寺東コミュニティセンター

1. 施設の概況

(1) 利用状況

- 平成 30 年度の利用者数（総数）は 26,017 人であり、1 日あたりの利用人数は 75 人（開館日数:345 日）であった。過年度と比較すると、過去 3 年間の利用者数（総数）は若干であるが増加傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成 30 年度で 3,379 回、1 日あたり利用回数は 9.8 回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではいずれの施設（部屋）分野も同程度の割合であった。
- 特に利用が多い団体の活動分野としては、「文化・芸術」「福祉（高齢者向け）」であった。



【利用団体の活動部分野】 (◎：特に利用実績が多い ○：利用実績がある)			
1. スポーツ（ヨガを含む）	○	6. 福祉（高齢者向け）	◎
2. 文化・芸術	◎	7. 福祉（障害者向け）	○
3. 緑・環境	○	8. 防犯・交通安全	○
4. 教育・青少年育成	○	9. 防災	○
5. 子育て	○	10. まちづくり	○
その他：娯楽（カードゲーム）、学習・勉強（英会話、習字）、会議（商工会議所、高校文化祭打ち合わせ）等			

(2) 主な事業

①事業名	つどい
②事業概要	開館以来、毎月第四木曜日（ここ数年）開催を原則に毎月開催してきた。地域の環境、交通、子ども問題等様々な問題を取り上げ話し合う場としてスタートした。誰もが自由に参加して対話する場として設けており、近年では身近なテーマから世界規模のテーマまで地域住民に関心を持ってもらえるようなテーマで実施している。
③体制	運営委員：6～10人 協力員：0人
④実績	実施回数：12回 参加人数：259人 事業費：50千円
⑤施設	ホール

①事業名	アジアを知ろう
②事業概要	昭和63年（1988年）より、「アジアを知ろう」をテーマに講演会を企画・運営してきた。講師には主として大学の先生方を招き、歴史、生活、政治、経済そして日本との関係について講演いただいている。また、当該国の食べ物（スイーツが多い）を担当運営委員がつくり、休憩時間に参加者に提供するなどの工夫をしている。
③体制	運営委員：6～10人 協力員：0人
④実績	実施回数：2回 参加人数：75人 事業費：25千円
⑤施設	ホール

①事業名	九浦の庭の生きもの探し
②事業概要	子ども事業の一つとして、「九浦の庭」において、運営委員でもある虫博士 小峰光弘さんが小学生や幼稚園児を対象に、虫探し体験と生き物について学ぶ機会を提供している。
③体制	運営委員：1～5人 協力員：0人
④実績	実施回数：1回 参加人数：17人 事業費：5千円
⑤施設	庭とホール

①事業名	私たちのまち企画
②事業概要	地域住民に地域のことを知ってもらうとともに地域に参加するきっかけをつくることを目的に、「私たちのまち企画」を年に数回開催している。具体的には、下記のような自主企画事業を実施している。「つどい」にやや似たテーマもあるが、まち企画は住人自らの参画・行動に重きを置いている点が特徴である。 ①九浦の庭での七夕飾り、②貝ノ瀬滋さんを招いての教育シンポジウム、③エコプラザについて考える、④九浦の家のお茶会、⑤東町の緑を見て歩こう、⑥ふるさと歴史館に行ってみよう
③体制	運営委員：11～15人 協力員：0人
④実績	実施回数：6回 参加人数：134人 事業費：30千円
⑤施設	-

①事業名	新春餅つき&かるた大会
②事業概要	毎年1月末に「新春餅つき&かるた大会」を開催している。55kgのもち米を2つの臼でつき、数種類のつきたての餅を参加者に振る舞うこの餅つき会は他コミセンにあり当コミセンにはない「文化祭」に代わる地域住民交流の場である。当事業は当コミセンで数少ない、利用者や地域諸団体が一堂に集まる重要な事業の一つになっている。
③体制	運営委員：11～15人 協力員：1～5人
④実績	実施回数：1回 参加人数：600人 事業費：82千円
⑤施設	庭、ホール、和室等全館

(3) コミュニティセンター活動体制

- 平成30年度時点の運営委員数は40名であり、協力員数は12名である。

2. 評価結果まとめ

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】 利用状況については団体利用が多い。</p> <p>【工夫している点】 団体の2回目以降の利用には団体登録をしてもらっている。コミセンの利用申込手続きを簡素化し、次回以降の利用促進を図っている。</p>
<p>新しい利用者・利用団体の増加</p>	<p>【現状】 普段コミセンを利用する機会が少ない方も参加しやすい事業（イベント）を検討している。</p> <p>【工夫している点】 事業の一つである新春餅つき大会では、普段コミセンの利用が少ない方も多く参加し、地域行事に参加するきっかけになっている。</p>
<p>施設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】 寄贈をいただいた美術作品を多数展示し、利用者が作品に触れあう場を提供している。</p> <p>【工夫している点】 小規模施設であり、ホールも60名程度しか収容できないが、隣の児童室も合わせて使うことによって、できるだけ広いスペースを確保している。</p>
<p>情報の提供</p>	<p>【現状】 コミセンの情報について、地域の掲示板への掲載に加えて、地域内の約6900戸への全戸配布を行っている。</p> <p>【工夫している点】 コミセン事務室に箱を用意して、地域のニュースを入れて、運営委員で共有している。</p> <p>【特筆すべき成果】 地域に関心を持ってもらうために、コミセンの行事に関する情報だけではなく、地域・まちの情報やニュース、吉祥寺東町在住や、ゆかりのある方を「九浦の家だより」で紹介している。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

<p>利用者・利用団体と コミセンとのつながり づくり</p>	<p>【現状】利用者懇談会等、一堂に会して利用者から意見を聞くという事はあまり行っていない。窓口でのコミュニケーションによって意見等を吸い上げている。</p> <p>【工夫している点】利用者からの要望に応じて、登録団体との仲介を行い、つながりを創出している。</p>
<p>地域とコミセンの つながりづくり</p>	<p>【現状】利用者や地域諸団体が一堂に集まり、地域住民交流の場として新春餅つき&かるた大会を実施している。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員の 人材充実</p>	<p>【現状】コミセンだよりの編集は大部分を特定の運営委員が担っている。校正などは他の役員も担っているが、今後同じものを継続していけるような体制を築けるかが課題である。</p>
<p>持続可能な事業の 実施</p>	<p>【現状】概ね安定的に事業を実施している（これまで組織的な体制などが原因で事業数を減らしたことはない）。</p> <p>【特筆すべき成果】昭和49年からほぼ毎月続いている「つどい」は、基本は地域課題の解決に向けてどなたでも参加できる事業。地域の課題を月に1回は話し合うというコンセプトで現在まで続いている。</p>
<p>活発な協議会運営</p>	<p>【現状】運営委員会を毎月1回継続的に実施している。そのほか、会則に役員会についての記載を追加し、役員会も月に1回行うほか、頻繁に臨時役員会も開催している。</p> <p>【工夫している点】自己点検・評価表を作成する際には、臨時運営委員会を開催し、基本的には運営委員の総意によって作成を行っている。</p>

④ 適正な運営

<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営</p>	<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 利用の決まりについては、役員会、運営委員会で協議をしている。必要に応じて窓口会議を開催して決定している。 ▶ 利用者に対しては、団体登録をする際に書面を渡して説明するほか、総会資料に会則等を添付し、周知している。
<p>個人情報の保護</p>	<p>個人情報の適切な取り扱いを行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 団体登録を基本としているため、あまり個人情報自体は預かっていない。 ▶ 鍵付きのキャビネット、机の引き出しに施錠して管理し、6か月経過後シュレッダーで廃棄している。
<p>事業計画に沿った運営</p>	<p>事業計画に沿った運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 各主催教室・事業について、事前準備、事後報告を役員会や運営委員会にて行う。必要に応じて反省会を行う。反省会では意見も活発に出され、事後の事業で活かされているものもある。
<p>経費削減と予算の適正な執行</p>	<p>経費削減と予算の適正な執行に向けて、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 毎月運営委員会にて会計報告を行い、執行状況は確認している。 ▶ 9月以降は決算状況、事業費、明細書を提示しつつ、適正な執行に向けて検討を行っている。

⑤ 施設・設備の管理

<p>異常時の市への連絡・報告</p>	<p>異常時に市への連絡・報告が迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 窓口担当者より代表へ連絡する。代表に連絡とれない時は、副代表に連絡する。その後、市や運営委員へ連絡する。（緊急連絡網を作成している。） ▶ 一連の流れについては、運営委員、窓口担当者で情報共有している。
<p>防災・防犯</p>	<p>防災・防犯について、緊急時において迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 定期的に防災訓練を行っている。東部防災会と定期的に会合を持っている。 ▶ 武蔵野警察（東町駐在所）とも連携をとり、特殊詐欺に関する講話などの機会を設けている。

防 火の管理	防火の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。 ➤ 毎日の開館時、閉館時に確認している。防火管理者以外にも資格を保有している運営委員がいる。
備 品の管理	備品の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。 ➤ 備品担当者が備品台帳を管理し、適宜、追加・更新を行っている。2名以上で確認を行うようにしている。

3. 総括

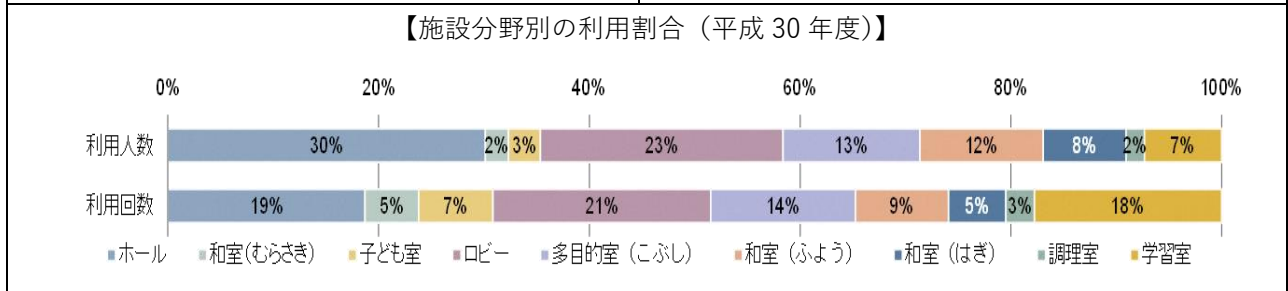
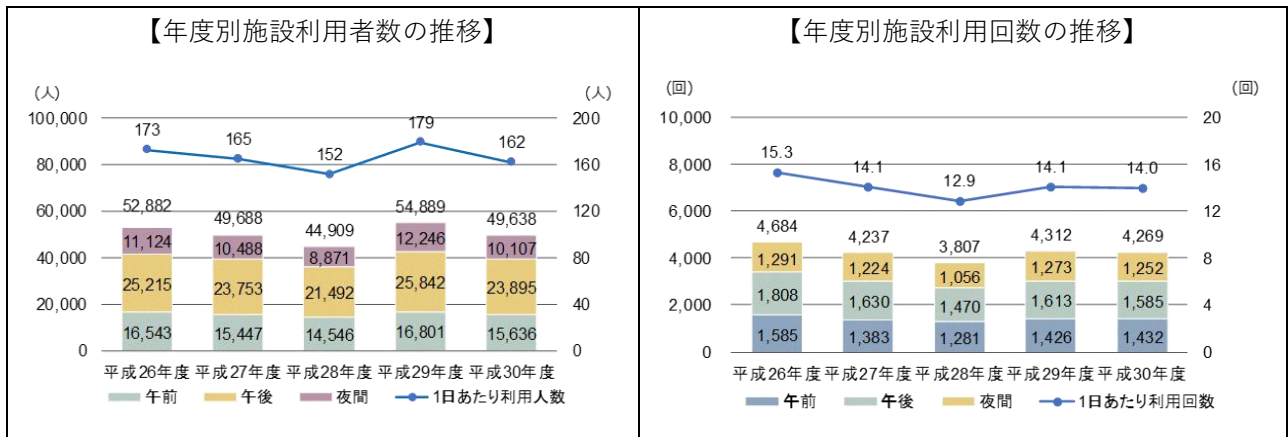
※現在、調整中

本宿コミュニティセンター

1. 施設の概況

(1) 利用状況

- 平成 30 年度の利用者数（総数）は 49,638 人であり、1 日あたりの利用人数は 162 人（開館日数:306 日）であった。過年度と比較すると、過去 3 年間の利用者数（総数）は若干であるが減少傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成 30 年度で 4,269 回、1 日あたり利用回数は 14.0 回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではロビー、ホール、学習室が他に比べて高かった。
- 特に利用が多い団体の活動分野としては、「スポーツ」「文化・芸術」であった。



【利用団体の活動部分野】 (◎：特に利用実績が多い ○：利用実績がある)			
1. スポーツ (ヨガを含む)	◎	6. 福祉 (高齢者向け)	○
2. 文化・芸術	◎	7. 福祉 (障害者向け)	○
3. 緑・環境		8. 防犯・交通安全	
4. 教育・青少年育成	○	9. 防災	○
5. 子育て	○	10. まちづくり	
その他：			

(2) 主な事業

①事業名	コミセン祭り
②事業概要	地域住民・コミセン利用者を対象に、子どもから大人まで楽しめる、そしてコミセンに親しみを持ってもらえる様な企画を準備している。地域のボランティアの協力を得て開催しており、普段コミセンで練習している利用者や地域団体等の発表や作品展示も行っている。
③体制	運営委員：21人以上 協力員：21人以上
④実績	実施回数：1回 参加人数：700人 事業費：230千円
⑤施設	全館

①事業名	コンサート
②事業概要	地域住民に生の良質な音楽を提供することを目的に開催している。ピアノ、声楽、チェロ、バイオリンなどのクラシックを中心に、幅広く、三線（さんしん）、ビッグジャズバンド、サルサ、ハンドベルなどの演奏会を開いている。
③体制	運営委員：1～5人 協力員：0人
④実績	実施回数：1回 参加人数：70人 事業費：130千円
⑤施設	1Fホール

①事業名	こども劇場
②事業概要	幼児・小学校低学年対象として、人形劇、パントマイム、影絵などの上演を行っている。例年の開催時期が近付くと電話で問い合わせがあるほど認知されており、親子で好評を得ている。
③体制	運営委員：1～5人 協力員：0人
④実績	実施回数：年1～2回 参加人数：各100人 事業費：100千円
⑤施設	1Fホール

①事業名	本宿ギャラリー
②事業概要	プロ・アマ、個人・団体を問わず、絵画・書・写真・手芸品など、自分の作品を発表する場所として開設している。広いスペースではないが、ギャラリーを介して新しいコミュニケーションが生まれ、たくさんの方に足を運んでもらえることを期待している。
③体制	運営委員：1～5人 協力員：0人
④実績	実施回数：15回 参加人数：105人 事業費：32千円
⑤施設	1Fロビー

(3) コミュニティセンター活動体制

○ 平成30年度時点の運営委員数は20名であり、協力員数は45名である。

2. 評価結果まとめ

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】住民総会や利用者懇談会で利用者からの意見を吸い上げ、その後の運営委員会等で検討している。</p> <p>【工夫している点】コミセン利用における優先予約の対象エリアを小学校学区域に合わせ、地域の要望に柔軟に対応している。</p>
<p>新しい利用者・利用団体の増加</p>	<p>【現状】様々な世代が利用しているが、特に子育て世代の来館を今後は増やしたいと検討している。</p> <p>【工夫している点】子ども向け事業（子ども劇場等）を行い、事業をきっかけに、子育て世代の利用促進に向け取り組んでいる。</p> <p>【特筆すべき成果】新しい事業（背骨コンディショニング等）を実施したことで、普段コミセンにあまり来られない方たちの参加につながった。</p>
<p>施設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】1階はガラス張りの部分が多い造りとなっている。</p> <p>【工夫している点】ロビーの一部を「本宿ギャラリー」とし、地域の方々の作品等を展示している。ギャラリーは常設で2週間ごとに作品を入れ替え、地域から親しまれている。</p>
<p>情報の提供</p>	<p>【現状】コミュニティだより（年3回発行）やホームページによって、広く広報をしている。</p> <p>【工夫している点】わかり易く楽しいポスター制作や、ミニチラシを作り、来館者への情報提供に努めている。</p> <p>ロビーに一目でわかるコミセン主催事業の報告パネルを掲示している。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

<p>利用者・利用団体と コミセンとのつながり づくり</p>	<p>【現状】コミセン祭りの開催では、普段利用している団体・個人の協力によって、継続的な交流を生み出すことができている。また、利用団体の発表会では、他の団体も鑑賞し、交流が生まれている。</p> <p>【工夫している点】コミセンを練習場所に使用していた成蹊大学のマジシャンズクラブや、絵本の読み聞かせイベントに参加していた団体に声をかけ、コミセン祭りで手伝いをしてもらえたなど、連携の幅を広げている。</p>
<p>地域とコミセンの つながりづくり</p>	<p>【現状】主催事業だけではなく、広く共催事業等も呼びかけを行っている。</p> <p>【工夫している点】ロビーの一角に設置した「本宿ギャラリー」は地域の人々のコミセン利用のきっかけにもなっている。また、地域の小中学校とは必要に応じて懇談会を設けるなどの関係性ができている。</p> <p>また、地域フォーラムを定期的に開催し地域問題を取り上げ、共通認識を持つようにしている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員の 人材充実</p>	<p>【現状】運営委員の人数は比較的少なく、一人当たりの負担は大きい。毎年、若干名の新規参加者が得られているが、まだ不足している。</p> <p>【工夫している点】コミセン祭りは、運営委員だけではなく利用団体にも積極的に関わってもらうことにより、より多くの方が協力してくれるようになった。コミセン祭りの実施には、成蹊大学のボランティアサークルの力も借りている。また、地域住民に限っていた募集範囲を市内在住に広げた。</p> <p>【特筆すべき成果】コミセン祭りの運営を手伝う利用団体が増えたことで、他の利用者・利用団体が運営に関与するハードルが低くなり、好循環が生まれている。</p>
<p>持続可能な事業の 実施</p>	<p>【現状】事業の精査をしつつ、実施している。</p> <p>【工夫している点】運営委員の中で事業の継続（継続／手直し／廃止）に関するアンケートを実施したり、共催事業を増やしたりしている。</p>
<p>活発な協議会運営</p>	<p>【現状】主たる事業の企画・運営は少ない運営委員で行っている。</p> <p>【工夫している点】運営委員は少数ではあるが、事業実施にあたっては、幅広い世代を対象とした企画を地域とともに事業として実施している。</p>

④ 適正な運営

<p>会則や利用の決ま りに沿った公平な運 営</p>	<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 必要に応じて運営委員会で検討、決定している。 ➤ 緊急の場合のみ役員会で決定し、その後運営委員会で正式に承認を得ている。 ➤ 運営委員は地域の方に限定する運用をしていたが、住民総会で承認を得たうえで、昨年度からは範囲を地域に限定しないこととしている。(会則には明記していない。市民である必要あり)
<p>個人情報の保護</p>	<p>個人情報の適切な取り扱いを行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 申請書は1年、受付簿は個人1か月、団体1年の保存期間終了後、シュレッダーで適切に処理している。
<p>事業計画に沿った 運営</p>	<p>事業計画に沿った運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 全ての事業は計画時に運営委員会で検討、承認をしている。 ➤ 各事業の係が運営委員会で報告しながら準備、実施している。係は年度初めに希望をとって調整し、決定している。 ➤ 事業終了後は事業報告書を作成し、運営委員会で報告している。
<p>経費削減と予算の 適正な執行</p>	<p>経費削減と予算の適正な執行に向けて、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 事業費、備品費等は運営委員会で検討、承認を得て、適切に執行している。 ➤ 当初の予定にない支出については、役員会や運営委員会で検討している。

⑤ 施設・設備の管理

<p>異常時の市への連 絡・報告</p>	<p>異常時に市への連絡・報告が迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 窓口当番が代表をはじめ運営委員に情報を共有し、市に連絡している。後日、運営委員会や窓口会にて報告している。 ➤ 窓口担当者はLINEを活用し、迅速に情報共有している。
<p>防災・防犯</p>	<p>防災・防犯について、緊急時において迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 防災訓練は年2回実施し、初期消火や通報訓練、利用者参加の避難誘導訓練を行っている。 ➤ 地域の情報交換会に参加している。

防 火の管理	<p>防火の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 閉館時にチェック表に基づき、火気、施錠、停電等館内を確認している。 ➤ 開館中も1回は外回りの点検をしている。
備 品の管理	<p>備品の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 毎年、担当を決めてデータで備品台帳を管理している。 ➤ 購入備品には備品シールを貼付している。

3. 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

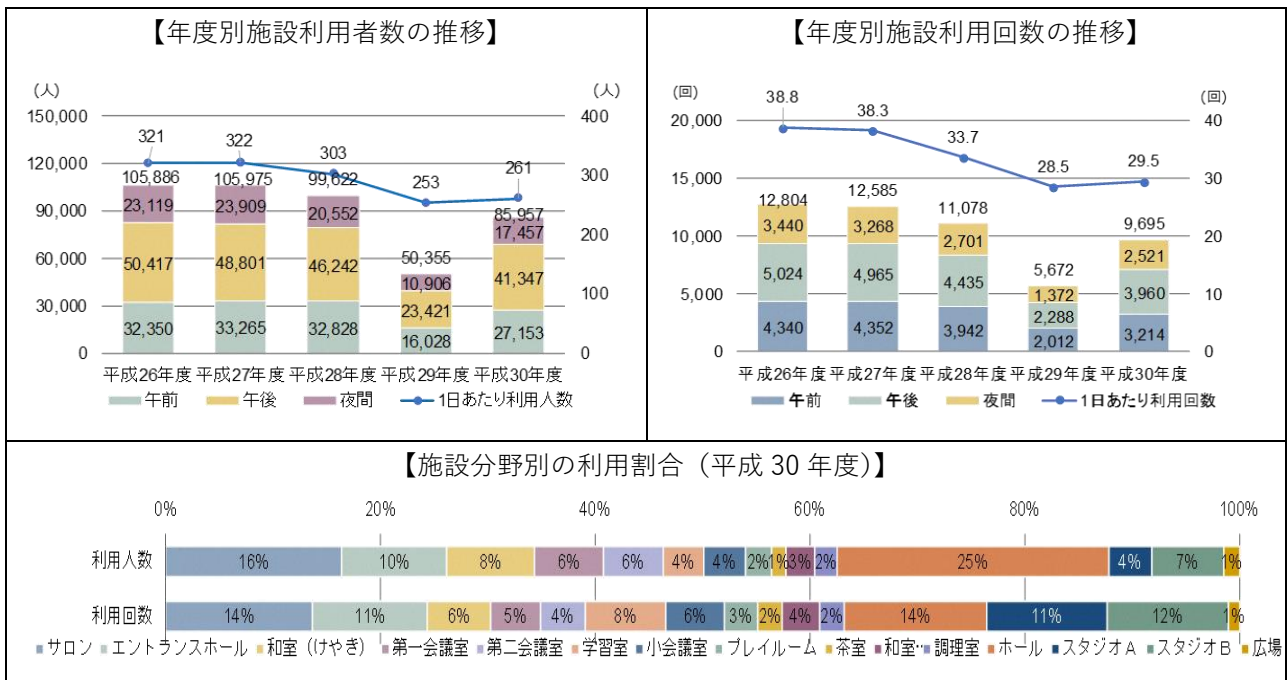
※現在、調整中

吉祥寺南町コミュニティセンター

4. 施設の概況

(1) 利用状況

- 平成 30 年度の利用者数（総数）は 85,957 人であり、1 日あたりの利用人数は 261 人（開館日数:329 日）であった。過年度と比較すると、利用数は下降傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成 30 年度で 9,695 回、1 日あたり利用回数は 29.5 回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数の割合はサロン、ホール、スタジオが他と比べて高かった。
- 特に利用が多い団体の活動分野としては、「文化・芸術」「福祉（高齢者向け）」であった。



【利用団体の活動部分野】		
(◎：特に利用実績が多い ○：利用実績がある)		
1. スポーツ (ヨガを含む)	○	6. 福祉 (高齢者向け)
2. 文化・芸術	◎	7. 福祉 (障害者向け)
3. 緑・環境	○	8. 防犯・交通安全
4. 教育・青少年育成	○	9. 防災
5. 子育て	○	10. まちづくり
その他：		

(2) 主な事業

①事業名	南町コミュニティニュースの月刊発行と全戸配布
②事業概要	コミュニティニュースを毎月発行し、運営協力員による手配りでの全戸配布を行っている。地域 6,200 戸に対し、運営協力員 70～80 名の手を経て配られている。アナログな情報提供手段ではあるが、年齢層の問題と配布活動が地域の点検活動につながるという観点からも大切な取り組みと考えている。しかし、運営協力員の高齢化という問題は避けて通れず、負担減のための方策も模索しなければならない現状もある。
③体制	運営委員：1～5人 協力員：21人以上
④実績	実施回数：12回 参加人数：80人 事業費：-
⑤施設	

①事業名	南町文化祭
②事業概要	書道生け花・福祉防災関係、音楽や演劇といった各種の利用団体の発表交流の場として開催している。コミセンに足を踏み入れるきっかけとしても大切にしている。特に南コミセンの場合は、展示スペースの他に、ホールでのコーラス・バンド演奏などの発表が充実している。
③体制	運営委員：16～20人 協力員：16～20人
④実績	実施回数：1回 参加人数：1000人(3日間) 事業費：220千円
⑤施設	全館

①事業名	桜まつり
②事業概要	南町福祉の会との共催で三月末に実施している。高齢化する地域コミュニティの中で、「南町元気体操の会」の協力もあり、体を動かし、交流会食し、親睦を深めている。コミセンに足を運んでもらう機会を少しでも多くするためには重要でな取り組みである。
③体制	運営委員：11～15人 協力員：6～10人
④実績	実施回数：1回 参加人数：100人 事業費：80千円
⑤施設	サロン

①事業名	不老体操(毎週金曜日)/地域健康クラブ(毎週火曜日)/南町元気体操(毎週月曜日)
②事業概要	高齢者支援課・高齢者支援センター・南町元気体操の会などと協力した高齢者対象の体操。それぞれの体力・興味に合わせて選択し、健康維持の習慣をつけるため、各種開催している。
③体制	運営委員：1～5人 協力員：0人
④実績	実施回数：199回 参加人数：4000人 事業費：-
⑤施設	ホール・和室けやき

①事業名	親子ひろば・パパ広場
②事業概要	市共催による collabono コミセン親子ひろば(年 24 回)として第一・第三金曜日午前で開催している。若い世代の少ない吉祥寺東側でのコミセン認知と子育て世代、乳幼児親子の交流の場となっている。第四金曜日には「ぐーぐーらいぶ」の協力を得て絵本の読み聞かせ(年 10 回程度)を実施している。また、隔月で若いお父さんたちの交流を目指して「パパひろば」(年 5 回)を開催。地域のベテラン男性陣をスタッフに、簡単な料理を作るなど、子育てパパ同士のつながりを作っている。
③体制	運営委員：1～5人 協力員：1～5人
④実績	実施回数：39回 参加人数：600人 事業費：-
⑤施設	

(3) コミュニティセンター活動体制

○平成30年度時点の運営委員数は39名であり、協力員数は160名である。

5. 評価結果まとめ

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】音楽や演劇等、様々な分野の利用団体がある。</p> <p>【工夫している点】音楽演奏等、音を発する団体同士が近くの部屋にならないよう、予約の段階で調整している。</p>
<p>新しい利用者・利用団体の増加</p>	<p>【現状】スタジオやホールがあるために、最近演劇やダンス練習で若い人の利用が増えている。また、「親子ひろば」事業には、子育て世代の参加があり、麻雀クラブは、女性の参加者が多く人気になっている。</p> <p>【特筆すべき成果】若いお父さんを巻き込む工夫として、「パパひろば」を開催し、子どもを仲立ちに地域参加してもらう仕組みを作っている。また、お父さんたちが気後れしないよう、「パパひろば」のスタッフは男性が担っている。</p>
<p>施設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】スタジオやホールがあり、演劇やダンスをする利用者が増えている。</p> <p>【工夫している点】ホールは、以前は20名以上での使用に限定していたが、ニーズの変化により、半分の区画で少人数でも利用できるように変更した。また、学習室は人気が高く、季節によっては入りきれないほどの利用者が訪れるため、必要に応じてその他の会議室に学習室を拡大している。</p>
<p>情報の提供</p>	<p>【現状】地域の約6,200戸に対し、協力員の手配りでコミュニティニュースを配布しているが、協力員の高齢化もあり、負担は大きくなっている。</p> <p>【工夫している点】利用者へ声掛けを行い、コミュニティニュースの配布を依頼している。また、協力員と運営委員は普段顔を合わす機会が少ないが、交流会を設けたことで、情報交換の機会も増え良い関係性を築けている。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

<p>利用者・利用団体と コミセンとのつながり づくり</p>	<p>【現状】南町文化祭は、各種の利用団体の発表交流の場となっているほか、地域住民がコミセンに来館してもらえるきっかけとなっている。</p> <p>【工夫している点】意見交換や情報共有を目的として、同じような活動団体（福祉や書道等）が交流できるよう、協議会がコーディネートしている。</p>
<p>地域とコミセンの つながりづくり</p>	<p>【現状】「防災ネットワーク」では、各種団体が集まる機会となり地域のつながりが生まれている。武蔵野地区外環問題協議会は近隣協議会（吉祥寺東・本宿）とのネットワーク事業。その他、市議会議員との懇談会もネットワーク事業として行っている。</p> <p>【工夫している点】吉祥寺南病院が同じ街区の隣接地に移転する予定。同病院と連携し、院長を招いて講座を行うなど活発に活動している。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員の 人材充実</p>	<p>【現状】スタッフの入れ替わりは、コミュニティニュース等での公募をメインに維持している。</p> <p>【工夫している点】令和元年度より、「助っ人バンク」といって、スポット的に協力してくれる人員を募り、令和元年夏時点で4名の応募が得られている。また、個人的な人脈に頼らない人員確保のため、コミセン利用者に対する声掛けを行っている。</p>
<p>持続可能な事業の 実施</p>	<p>【現状】利用者のニーズや運営委員の負担を考慮し、精査を行っている。</p> <p>【工夫している点】適宜事業の見直しを行い、新しい利用者の増加につながるような、新規事業に取り組む体制を生み出している。</p> <p>【特筆すべき成果】南町カーニバルは協議会と商店街の事業で、過去に人手不足から廃止を検討したこともあるが、地域の人々（サッカークラブ・野球クラブの保護者など）から形を変えての継続を提案され、協力を得ながら工夫して継続している。</p>
<p>活発な協議会運営</p>	<p>【現状】運営委員＝窓口担当となると窓口業務に比重が偏ってしまうという課題がある。</p> <p>【工夫している点】窓口業務に携わらないフリーの役員の増員を検討している。</p>

④ 適正な運営

<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営</p>	<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 会則は運営委員会で協議し、総会で提案し、承認を得ている。利用上の改善や対応策の確認は、連絡ノートにより情報把握を行い、役員会→窓口会→運営委員会の形で協議・共有している。 ▶ 利用者への周知は、コミュニティニュースの配布（地域の約 6,200 戸にポスティング。協力員の手配り）やホームページにより行っている。 ▶ できるだけ多くの方に利用してもらう利用条件とするために適宜見直しを行っているが、窓口会での周知徹底が難しい。
<p>個人情報の保護</p>	<p>個人情報の適切な取り扱いを行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 一定期間(1年)保管後、シュレッダー処理している。
<p>事業計画に沿った運営</p>	<p>事業計画に沿った運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 運営委員会で提案の後、実行委員会及び窓口会議等で準備している。終了後は各段階で集約し、次年度の為、運営委員会で報告を行っている。 ▶ 原則運営委員＝窓口担当としており、事業も内向きになる傾向があるため、窓口業務に携わらないフリーの役員が俯瞰的に運営を見られる工夫をしている。
<p>経費削減と予算の適正な執行</p>	<p>経費削減と予算の適正な執行に向けて、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 執行側より運用上の相談・報告の形で、科目内での節約等もある。費用対効果は念頭に置いている。

⑤ 施設・設備の管理

<p>異常時の市への連絡・報告</p>	<p>異常時に市への連絡・報告が迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 緊急時は、委員長または副委員長に連絡し、その後、市民活動推進課に連絡することになっている。
<p>防災・防犯</p>	<p>防災・防犯について、緊急時において迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 防災訓練・避難訓練は利用者懇談会と併せて年一回実施している。利用者にも参加してもらい、避難誘導訓練を行っている。 ▶ 消防庁による救命講習にて消火器や AED の使い方等を習い、救命技能認定証を取得した運営委員もいる。 ▶ 南町防災ネットワークに参加し、定期的に意見交換を行っている。

	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 防災倉庫の整理を行っている。
防 火の管理	<p>防火の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 毎日の閉館前の火気点検・閉鎖障害点検などはチェック表に基づき実施している。
備 品の管理	<p>備品の適正な管理に向けて、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。</p>

6. 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

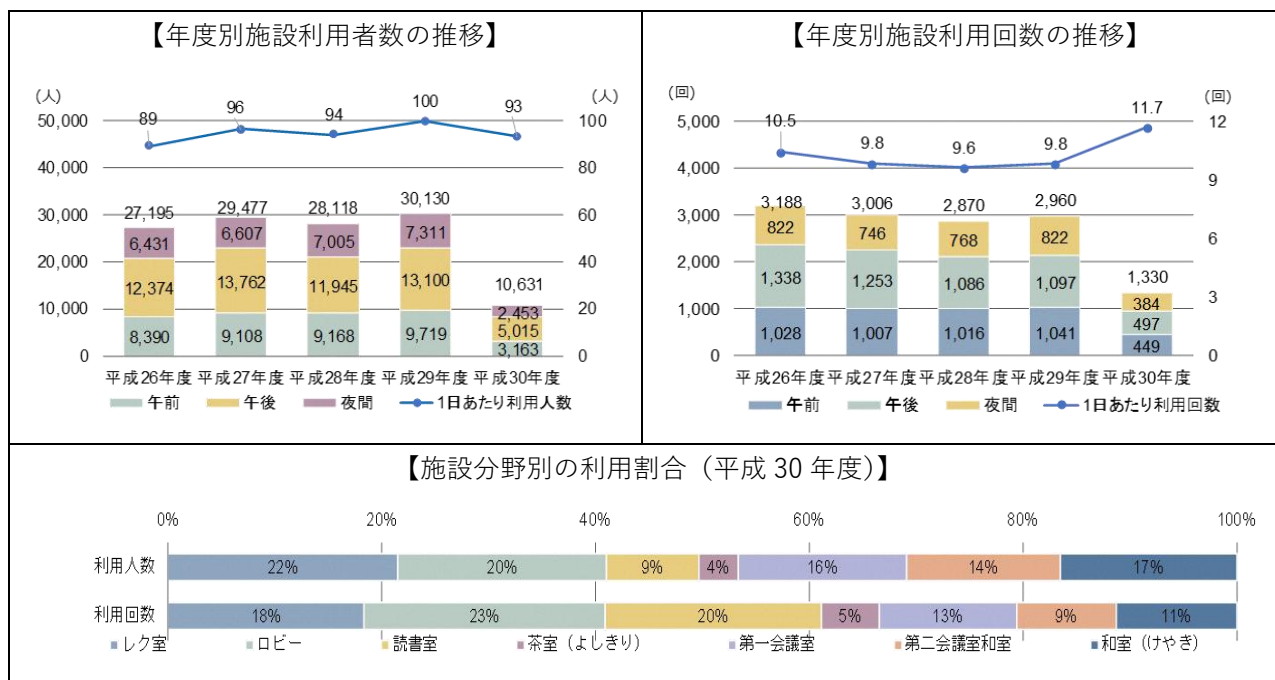
※現在、調整中

御殿山コミュニティセンター

7. 施設の概況

(1) 利用状況

- 平成 30 年度の利用者数（総数）は 10,631 人であり、1 日あたりの利用人数は 93 人（開館日数:114 日）であった。工事による長期休館期間を鑑みて過年度と比較すると、過去 3 年間の利用者数（総数）は若干であるが増加傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成 30 年度で 1,330 回、1 日あたり利用回数は 11.7 回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではロビー、読書室、レク室の利用回数が他と比べて高かった。
- 特に利用が多い団体の活動分野としては、「文化・芸術」「福祉（高齢者向け）」「防災」であった。



【利用団体の活動部分野】 (◎：特に利用実績が多い ○：利用実績がある)			
1. スポーツ（ヨガを含む）	○	6. 福祉（高齢者向け）	◎
2. 文化・芸術	◎	7. 福祉（障害者向け）	○
3. 緑・環境	○	8. 防犯・交通安全	○
4. 教育・青少年育成	○	9. 防災	◎
5. 子育て	○	10. まちづくり	○
その他：			

(2) 主な事業

①事業名	コミセンまつり
②事業概要	主に 11 月 ・作品展示 2 日間（利用者：地域の方の作品） ・芸能大会（カラオケ・舞踊・手品等） ・出店販売（サンドイッチ、おしる粉・だんご・焼そば、コーヒー） ・懇親会で（出展者、出演者、担当者）それぞれの意見を聞く。 内容はその年度によって異なる。
③体制	運営委員 21 人以上 協力員：11～15 人
④実績	実施回数：年 1 回 参加人数：延べ 200 人 事業費：300 千円
⑤施設	全館 2 日間

①事業名	健康麻雀
②事業概要	・地域の高齢者主体 ・麻雀台 9 卓 ・欠席者が少なく、常に 30 名以上の参加があるため新規加入者が募れないほどである ・1 ヶ月 200 円の参加料
③体制	運営委員：11～15 人 協力員：11～15 人
④実績	実施回数：月 2 回 参加人数：1 か月 70 人 事業費：20 千円
⑤施設	レクリエーション室

①事業名	みんなでカフェ
②事業概要	・健康クラブ終了後のコーヒータイムとして利用できるように健康クラブの日程に合わせて実施している。 ・一杯 100 円 ・高齢者向け、利用者・フリーの方も利用できる事業である。
③体制	運営委員：6～10 人 協力員：6～10 人
④実績	実施回数：月 2 回 参加人数：1 か月 40 人 事業費：20 千円
⑤施設	ロビー

①事業名	防災訓練
②事業概要	・町会、福祉の会と共催 ・参加者：地域の方 ・武蔵野消防署による指導（AED の取り扱い方法・講話・消火器の使い方・人工呼吸法など） ・三角布は参加者に配布 ・日本赤十字社より（止血方法及び応急処置方法） ・AED 人形 8 体使用、マウスピース配布 ・安全の基本（自助、共助、公助）3 原則
③体制	運営委員：16～20 人 協力員：6～10 人
④実績	実施回数：年 1 回 参加人数：50 人 事業費：10 千円
⑤施設	-

①事業名	①クリスマス会 ②おひなさまの会 ③お花見の会
②事業概要	①毎年 12 月 大人 1000 円 子ども 500 円 お楽しみ会あり ②年 1 回、年度末 参加費 100 円（子ども無料） ③年 1 回、年度末 参加費 500 円
③体制	運営委員：6～10 人 協力員：6～10 人
④実績	実施回数：①1 ②1 ③1 各 1 回 参加人数：①30 人②30 人③30 人 事業費：①60 千円②30 千円③30 千円
⑤施設	①レクリエーション室 ②ロビー ③公園散策～ロビー

(3) コミュニティセンター活動体制

- 平成 30 年度時点の運営委員数は 25 名であり、協力員数は 12 名である。

8. 評価結果まとめ

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】年に1回、各サークルに案内を出し、各2名までの参加で利用者懇談会を行っている。</p> <p>【工夫している点】子育て世代の利用増加を目的として、市との共催事業である「親子ひろば」を開催している。「子どもルーム」などの自由に遊びまわれる部屋はなかったが、和室を代用することで開催が可能となった。</p>
<p>新しい利用者・利用団体の増加</p>	<p>【現状】健康麻雀の人气が高く、多くの参加者が集まっている。現状では、高齢者の利用が多く、高齢者向けの事業が多い。一方で、駅に近く立地条件が良いことから、若者の利用も増えつつあり、比較的地域外の人の利用も多い。</p>
<p>施設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】自由に出入り出来るオープンスペースというよりも、細かく会議室に区切られた作りになっている。一方で、中庭にウッドデッキがあり、人が集まるスペースとしての活用の余地がある。</p>
<p>情報の提供</p>	<p>【現状】コミセンに関わる情報は、町会やマンションの掲示板に掲示し、各住宅には回覧板を通してお知らせしている。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

<p>利用者・利用団体と コミセンとのつながり づくり</p>	<p>【現状】コミセンまつりでは、展示・芸能等の発表のほか、終了後、反省会や懇親会を行っている。</p> <p>【工夫している点】利用者間につながりづくりのため、健康クラブの日程に合わせて、ロビーでミニカフェを開催しており、利用者がお茶やコーヒーを飲みながら交流することができている。</p>
<p>地域とコミセンの つながりづくり</p>	<p>【現状】老人会や青少協、御殿山町会等の地域団体メンバーと運営委員が重複している。</p> <p>【工夫している点】地域団体と運営委員が重複しており、連携につながっている。また、防災訓練等、共通の目的に対し地域の諸団体と協力して取り組んでいる。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員の 人材充実</p>	<p>【現状】事業をきっかけにコミセンに来てくれた人と交流する場を設け、協議会運営に興味を持ってもらえるような取り組みをしている。</p>
<p>持続可能な事業の 実施</p>	<p>【現状】高齢者向けの事業が多いが、今後は子どもを対象とした事業を増やしていきたいと検討している。</p> <p>【工夫している点】子どもに人気のあった事業で、「みんなで忍者」というものがあつたが、主催団体の拠点移転に伴い、事業の継続が困難になったが、子どもを対象とした「コミセン親子ひろば」に新たに取り組んだ。また、高齢者に向けた健康麻雀など、他にも新たな取り組みを実施している。</p>
<p>活発な協議会運営</p>	<p>【現状】若い世代の利用が増えている等、利用者の把握・分析をし、運営に関わる人を増やすための、次の取り組みについて模索している。</p>

④ 適正な運営

<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営</p>	<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 毎年一回、役員及び窓口担当者が見直している。 ▶ 問題提起に関わらず、運営委員会で報告し対処している。
<p>個人情報の保護</p>	<p>個人情報の適切な取り扱いを行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 個人情報に関わる書類は、ロッカーに入れて保管している。 ▶ 様子を見ながら、受付簿は約一年後にはシュレッダーにかけて破棄している。
<p>事業計画に沿った運営</p>	<p>事業計画に沿った運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 運営委員・協力委員で準備し、実施後は、反省会を設け次回に繋げている。
<p>経費削減と予算の適正な執行</p>	<p>経費削減と予算の適正な執行に向けて、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 運営委員で話し合い、前年度等の比較や経費削減に向けて意見が出たものを中心に執行している。 ▶ 新たな支出について役員会で話し合い、運営委員会で報告している。

⑤ 施設・設備の管理

<p>異常時の市への連絡・報告</p>	<p>異常時に市への連絡・報告が迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 役員（会長、副会長）に連絡の上、市へ報告している。
<p>防災・防犯</p>	<p>防災・防犯について、緊急時において迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 消防計画に基づき対応し、その後市へ報告している。 ▶ 毎年8月に、御殿山一丁目町会や福祉の会、老人会など地域団体と共に防災訓練を行っている。地域に日赤奉仕団の委員長がいるつながりで、日本赤十字社の看護師（救急隊員）の参加があり、アドバイスをもらっている。
<p>防火の管理</p>	<p>防火の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 消防計画表を掲示し周知徹底しているほか、管理責任者の指示の下、役員会でお知らせしている。 ▶ 窓口担当者が館内チェックシート（ガス・空調等）に基づき点検を行っている。

備品 の管理	備品の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。 ▶備品を購入又は廃棄の都度、部屋ごとに作成した備品台帳を更新している。
---------------	---

9. 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

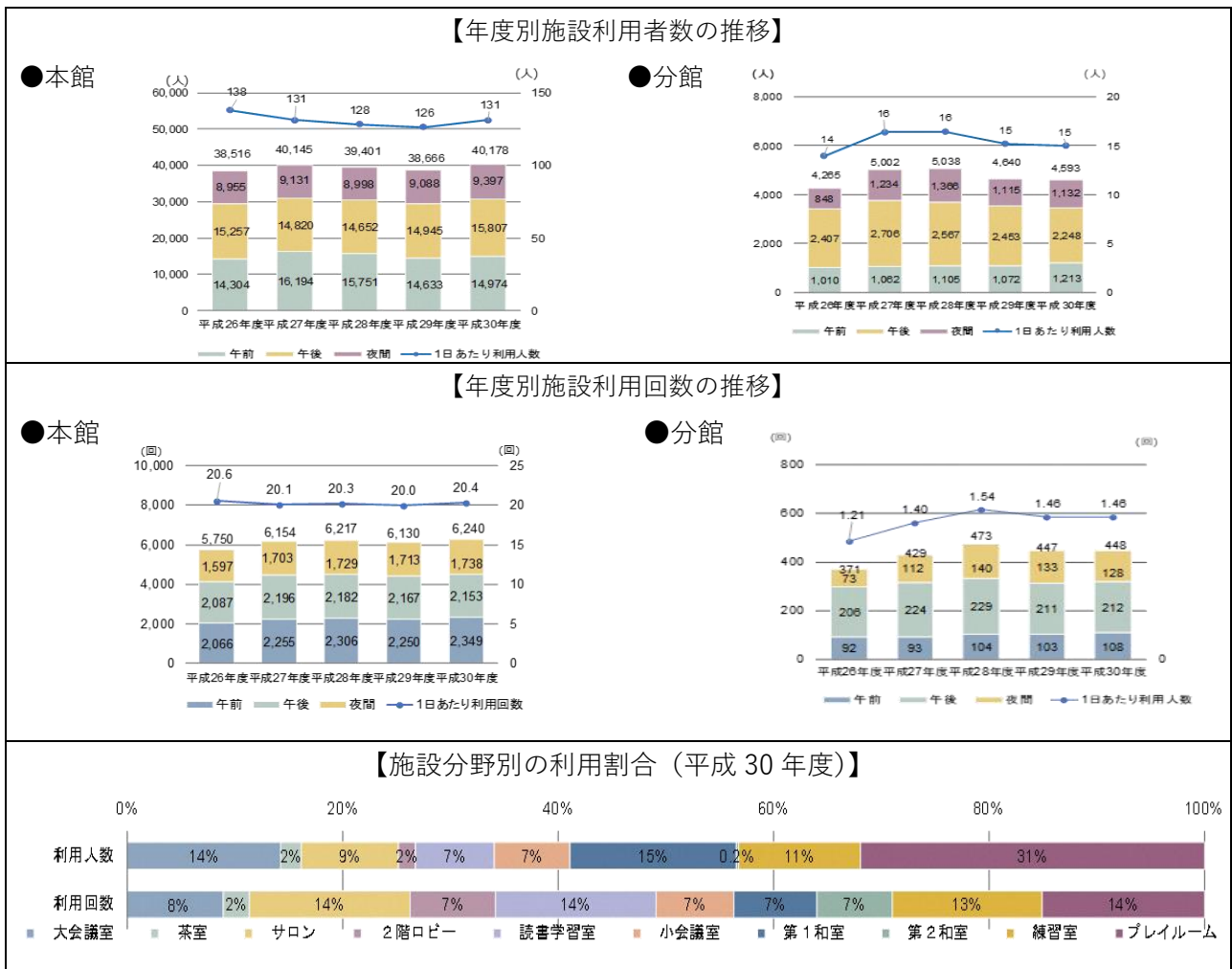
※現在、調整中

吉祥寺西コミュニティセンター

10. 施設の概況

(1) 利用状況

- 平成 30 年度の利用者数（総数）は本館 40,178 人、分館 4,593 人であり、1 日あたりの利用人数は本館 131 人、分館 15 人（開館日数:306 日）であった。過年度と比較すると、過去 3 年間の利用者数（総数）はほぼ横ばいである。
- 利用回数（総数）は平成 30 年度で本館 6,240 回、分館 448 回で、1 日あたり利用回数は本館 20.4 回、分館 1.46 回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではサロン、読書学習室、プレイルームの利用割合が他と比べて高かった。
- 特に利用が多い団体の活動分野としては、本館が「文化・芸術」「子育て」「福祉（高齢者向け）」、分館が「文化・芸術」「教育・青少年育成」であった。



【利用団体の活動部分野：本館】 (◎：特に利用実績が多い) (○：利用実績がある)

1. スポーツ（ヨガを含む）	○	6. 福祉（高齢者向け）	◎
2. 文化・芸術	◎	7. 福祉（障害者向け）	
3. 緑・環境	○	8. 防犯・交通安全	
4. 教育・青少年育成		9. 防災	○
5. 子育て	◎	10. まちづくり	○
その他：地域のマンション管理組合の会合、ヨガグループ 数団体、演劇グループの練習 7~8 団体			
【利用団体の活動部分野：分館】 （◎：特に利用実績が多い ○：利用実績がある）			
1. スポーツ（ヨガを含む）		6. 福祉（高齢者向け）	○
2. 文化・芸術	◎	7. 福祉（障害者向け）	
3. 緑・環境		8. 防犯・交通安全	
4. 教育・青少年育成	◎	9. 防災	○
5. 子育て	○	10. まちづくり	○
その他：地域のマンション管理組合の会合、演劇グループ			

(2) 主な事業

①事業名	フリーマーケット・野菜販売・セトモノ食器リサイクル祭り
②事業概要	年2回実施（7月・11月）しており、サロンでは喫茶も実施している。7月は単独開催だが、11月はコミセンまつり内での実施である。地域住民の出店・提供など、物品を通しての地域の人と人の交流を促進することができている。開催日程、手伝い者の確保・調整が難しいが、多くの地域住民が楽しみにしている人気事業である。
③体制	運営委員：16～20人 協力員：11～15人
④実績	実施回数：2回 参加人数：550人 事業費：27千円
⑤施設	プレイルーム・和室・1階通路・駐輪場（野菜）・サロン

①事業名	あそぼうよ
②事業概要	主に小学校低学年の遊び場として、立ち上げた事業だが、子どもだけではなく保護者の方にも大変喜ばれている。（内容：おもちゃつき・科学あそび（空気の実験）・紙飛行機飛ばし・シャボン玉あそび・ソーメン流し・輪投げ大会・工作をしよう・人形劇・サンタさんからプレゼント・豆まきとゲーム・すいとん作り等）ただし、スタッフの高齢化が課題となっている。
③体制	運営委員：6～10人 協力員：1～5人
④実績	実施回数：7回 参加人数：364人 事業費：160千円
⑤施設	コミセンプレイルーム・サロン・吉祥寺西公園

①事業名	井ノ頭通り美化活動
②事業概要	成蹊通り交差点（吉祥寺本町3-25）からコミセン入口の交差点までの200m、及び紀ノ国屋先交差点（吉祥寺本町3-6）までの260mの井ノ頭通りの街路樹植込みの花の手入れとゴミ拾いを行う。第1日曜日と第3土曜日に実施しており、清掃活動を通して地域の人をつながりを作っている。小学校PTA及び第1中学校生徒の自主参加がある。
③体制	運営委員：6～10人 協力員：1～5人
④実績	実施回数：20回 参加人数：143人 事業費：30千円
⑤施設	井ノ頭通り、大会議室（終了後懇親会）

①事業名	あるこうかい
②事業概要	年4回、約15,000歩を目途にウォーキング実施し、「あるこうかい」を通しての仲間づくりとコミセンの協力者確保を目指している。日本橋周辺の散策・高麗神社と巾着田の散策・月島、豊洲界隈の散策、千鳥ヶ淵周辺の桜ウォークなど、毎回新しい名所を巡っている。なお、交通費等は実費である。事前に実踏を行い、経路及び安全を確認している。
③体制	運営委員：11～15人 協力員：11～15人
④実績	実施回数：4回 参加人数：93人 事業費：40千円
⑤施設	交通機関 大会議室（実行委員会）

①事業名	サロンイベント／ホッとCaféシェ・モア
②事業概要	サロンイベントは年に4回、「ホッとCafeシェ・モア」奇数月の第4土曜日に実施している。地域の方を招き、講演会、演奏会、舞踊などのイベントを開催して好評を得ている（三鷹市大沢の水車の話、歌声喫茶、戦国武士の時代と人間太田道灌など）。毎回、マスターが選んだコーヒー銘柄を提供しており、楽しみにしている人が多い。イベント、Caféを楽しみながら、コミセンに関心を持っていただくことを目的としている。
③体制	運営委員：6～10人 協力員：1～5人
④実績	実施回数：11回 参加人数：286人 事業費：27千円
⑤施設	サロン・プレイルーム

(3) コミュニティセンター活動体制

- 平成30年度時点の運営委員数は35名であり、協力員数は68名である。

11. 評価結果まとめ

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】利用者懇談会を開催している。利用者懇談会では、コミセンの申込・予約方法、施設の問題などについて様々な意見交換がなされ、改善に向けた取り組みをしている。</p> <p>【工夫している点】コミセンを頻繁に使用する団体に対しては、予約時等に利用者懇談会への出席を依頼している。</p>
<p>新しい利用者・利用団体の増加</p>	<p>【現状】個人の利用を認めている、練習室やプレイルーム、サロンがあることで、楽器・ダンスの練習や2・3人の懇談等によく活用されている。プレイルームは、他市の利用者も多い。</p>
<p>施設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】分館については、演劇練習や体操等、大きな音を発するような活動で利用されることが多い。</p> <p>【工夫している点】エントランスには園芸クラブで育てた鉢植えを置いて、来館者に四季を感じてもらっている。</p>
<p>情報の提供</p>	<p>【現状】「コミセンだより」を年5回発行し、地域のほぼ全戸に配布している。地域に8か所の掲示板を設置し、各事業のお知らせをしている。館内の壁面や掲示板を使って、協議会の歴史や地域団体の活動紹介を行っている。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

<p>利用者・利用団体と コミセンとのつながり づくり</p>	<p>【現状】 地域懇談会を年2回開催している。</p> <p>【工夫している点】 地域懇談会では毎回テーマを設定して、地域で活動する団体間で現状と課題の共有を図っている。</p> <p>【特筆すべき成果】 地域懇談会での意見がきっかけとなり、「井ノ頭通り美化活動」などがスタートし、地域の方たちとともに現在も継続している。</p>
<p>地域とコミセンの つながりづくり</p>	<p>【現状】 地域には子どもたちが遊べる場所が少なかったため、遊び場の提供として「あそぼうよ」という事業を始めた。</p> <p>【工夫している点】 福祉の会をはじめ、共催事業を多く実施しており密接な関係を築いている。</p> <p>【特筆すべき成果】 「あそぼうよ」は長年続いている事業で、一小と井之頭小の児童も参加し、学校と学年を超えた交流が生まれている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員の 人材充実</p>	<p>【現状】 協力員として70～80名が登録しているが、登録した協力員が皆参加できるとは限らない。コミセンだよりで募集をしているが、新たな担い手の獲得にはつながっていない。</p>
<p>持続可能な事業の 実施</p>	<p>【現状】 年間を通して、継続的に週1回以上の事業を実施している。</p> <p>【工夫している点】 事業は多いが、大きな負担にならないよう担当が分かれている。また、利用者からのニーズや運営委員の実情を鑑みて、事業の精査を行っている。</p>
<p>活発な協議会運営</p>	<p>【現状】 毎月、運営委員会・役員会・窓口担当者会議を開催している。窓口業務に関する事項を協議し、円滑・適切なコミセン運営を行っている。</p>

④ 適正な運営

<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営</p>	<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 会則や利用の決まりについて、不具合がある場合には役員会にて話し合い、その内容を運営委員会で討議し、改訂する。(監事の位置づけ、分館の利用区分の見直し等について今後検討していく)
<p>個人情報の保護</p>	<p>個人情報の適切な取り扱いを行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 利用申込書及び受付集計簿は、ファイリングし1年間保存する。その後事業ごみとして焼却処理をしている。(今後はシュレッダー処理を行う予定) ➤ 個票は1週間保存後、シュレッダーにかけている。
<p>事業計画に沿った運営</p>	<p>事業計画に沿った運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 年初の事業計画に基づき、定例事業は実行委員会で検討し、実施している。 ➤ 各運営委員が担当する事業はアンケートに基づき割り振っている(運営委員は最低2つの事業を担当する)。 ➤ 運営委員会で前月の活動結果及び次月の予定を報告している。年度末に実行委員会の反省会を実施している。
<p>経費削減と予算の適正な執行</p>	<p>経費削減と予算の適正な執行に向けて、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 半期毎に実行委員会・事業費の執行状況を運営委員会に報告している。実行委員会毎に適正な執行が行われており、運営委員会で特別な意見はない。

⑤ 施設・設備の管理

<p>異常時の市への連絡・報告</p>	<p>異常時に市への連絡・報告が迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 窓口担当者および役員会にて重要課題が発生・確認された場合は、委員長から市へ連絡・報告をし、対応指示を仰いでいる。
<p>防災・防犯</p>	<p>防災・防犯について、緊急時において迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 毎月、窓口担当者会議にて問題点の確認を行い、共有している。 ➤ 消防署職員による AED の使い方の講習会等、年1回、窓口担当者や当日利用者が参加する防災訓練を実施している。

防 火の管理	<p>防火の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 避難経路の案内図を各部屋に貼付している。 ➤ 窓口担当者には避難誘導を指示している。 ➤ 日常点検として窓口担当者は給湯器など火元確認を行っている。
備 品の管理	<p>備品の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 備品購入時、備品台帳簿に記載し備品シールを貼付して管理している。 ➤ 備品廃棄時に台帳から削除している。 ➤ 今年度は台帳の棚卸をしている。

12. 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

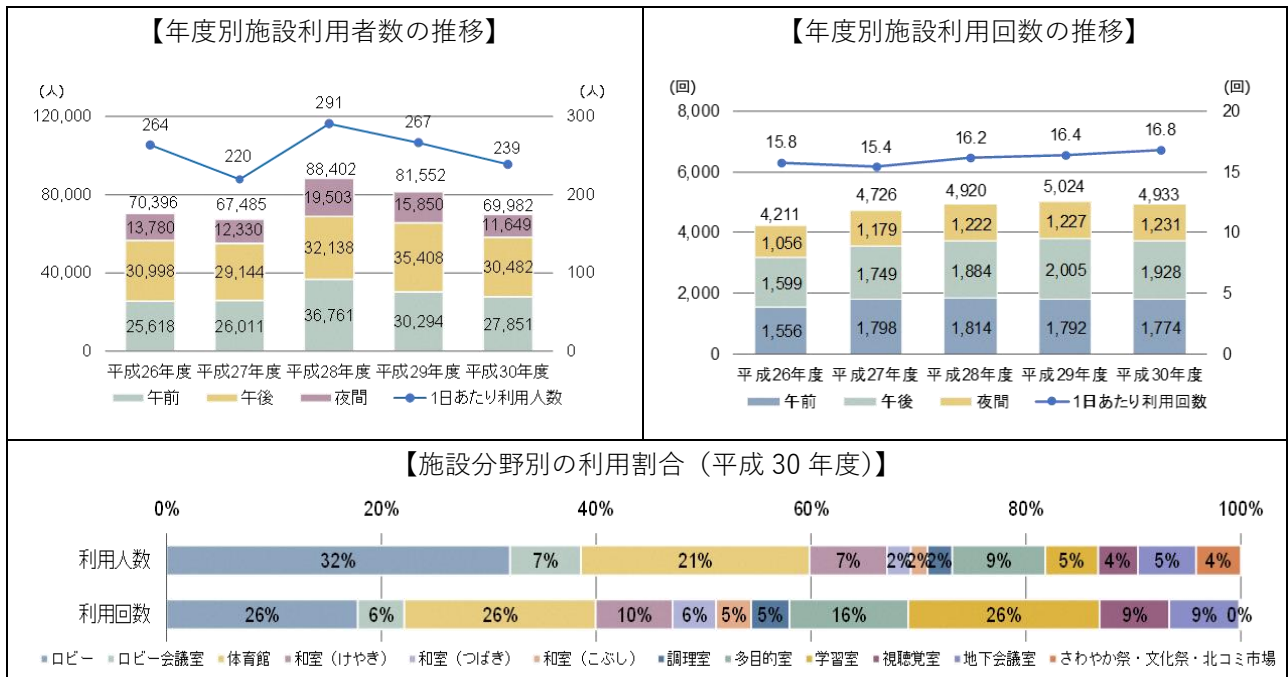
※現在、調整中

吉祥寺北コミュニティセンター

13. 施設の概況

(1) 利用状況

- 平成30年度の利用者数（総数）は69,982人であり、1日あたりの利用人数は239人（開館日数:293日）であった。過年度と比較すると、過去3年間の利用者数（総数）は減少傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成30年度で4,933回、1日あたり利用回数は16.8回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではロビー、体育館、学習室が他と比べて高かった。
- 特に利用が多い団体の活動分野としては、「スポーツ」「文化・芸術」「福祉（高齢者向け）」であった。



【利用団体の活動部分野】 (◎：特に利用実績が多い ○：利用実績がある)			
1. スポーツ (ヨガを含む)	◎	6. 福祉 (高齢者向け)	◎
2. 文化・芸術	◎	7. 福祉 (障害者向け)	○
3. 緑・環境	○	8. 防犯・交通安全	○
4. 教育・青少年育成	○	9. 防災	○
5. 子育て	○	10. まちづくり	○
その他： マンション管理組合の会合、演劇、ボードゲーム他 遊び			

(2) 主な事業

①事業名	さわやかまつりのお神輿巡行
②事業概要	さわやかまつりの目玉出し物の一つとして、企画。幼児から小学校低学年の皆さんまでを対象に行うもので、神輿はペットボトルで作られ午前11時と午後2時、200mほど離れた老人ホームまで往復を2回巡行。毎回、子ども30人の参加。参加者には少額のお菓子を配布。
③体制	運営委員：1～5人 協力員：6～10人
④実績	実施回数：2回 参加人数：60人 事業費：5千円
⑤施設	公道と体育館

①事業名	文化祭の吹奏楽演奏 / 四小茶道部によるお手前のお手伝い
②事業概要	文化祭の開幕を告げる、四小・四中の吹奏楽団の演奏。地域の皆さん、ご家族の皆さん、学校関係者の皆さんに大変喜んでいただいている。出演された皆さんには少額のお菓子を配布。 / 文化祭で、ロビーで行われる抹茶コーナーに四小茶道部の人たちが指導担当の先生と一緒に土曜日の午前中だけ、お手伝いをお願いしている。日本の伝統を小さいお子さんが振舞われている姿に地域の方々から称賛の声が寄せられている。(ロビー)
③体制	運営委員：6～10人 協力員：1～5人
④実績	実施回数：1回 参加人数：80人 事業費：10千円
⑤施設	体育館

①事業名	親子劇場 / お話の会さくらんぼ
②事業概要	人形劇団“コパン”を招致して、小学校低学年、保育園児の皆さん、地域の皆様から楽しみにされている企画。 / お話の会「さくらんぼ」：月1回、絵本、紙芝居、パネルシアター、工作を行っている。プログラムの中に、手遊びや歌もあり、又、工作は「動くおもちゃ」作りを入れたことにより、お父さんの参加が増えている。月1回、毎回15～20人の参加。(視聴覚室)
③体制	運営委員：1～5人 協力員：1～5人
④実績	実施回数：年1回 参加人数：120人 事業費：80千円
⑤施設	ロビー

①事業名	コンサート事業
②事業概要	ロビーにある、ドイツ製のピアノ“ベヒシュタイン”を主体に、年2～3回の開催。ジャンルは当初はクラシックが中心だったが、最近はタンゴ・ラテン・ハワイアン・オペラアリア等と拡大している。 参加者は地域の人だけでなく、遠方(市外・都外の方も)からも来る。質の高い内容が皆さんに知れ渡り、好評を博している。入場料(@500)収入は事業費に戻している。 他に、年2～3回、土曜日の午後の30分間、若手ピアニストを招いて、“お昼のひとときを音楽で”という無料のミニコンサートも催している。
③体制	運営委員：16～20人 協力員：0人
④実績	実施回数：2～3回 参加人数：120人 事業費：190千円
⑤施設	ロビー

①事業名	パソコン学習会
②事業概要	19年前に、パソコン技術・知識の取得と共に住民同士のつながり・絆づくりを図る目的で、今日まで毎週日曜日の午前と午後の各2時間、学習会を開催している。(8月は1か月間の夏休み) 参加者からは午前200円、午後200円、終日300円徴収している。パソコンは市から貸出を受け、会計処理は市の補助金会計とは別途に処理。
③体制	運営委員：1～5人 協力員：6～10人
④実績	実施回数：年間40回 参加人数：300人 事業費：0千円
⑤施設	地下会議室

(3) コミュニティセンター活動体制

○平成30年度時点の運営委員数は18名であり、協力員数は62名である。

14. 評価結果まとめ

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】地域の団体にはロッカーや倉庫のスペースを提供している。</p> <p>【工夫している点】夏季の体育室は高温になりやすく、利用者へ声掛けや保冷剤を渡す等の対応を行っている。また、利用者からの意見を取り入れて、部屋の利用要件の改善も取り組んでいる。</p>
<p>新しい利用者・利用団体の増加</p>	<p>【現状】「北町さわやかまつり」は、コミセン利用者が主催側となり開催している。</p> <p>【工夫している点】「北町さわやかまつり」は過去のコミュニティ評価委員会報告を受けて、地域の諸団体も巻き込んで行っている。結果として、団体同士の交流が生まれている。</p>
<p>施設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】ロビーは貸出をしていないが、気軽に来館できるよう、行事として協議会主催で講演会やコンサート等を行っている。</p> <p>体育館を活用して「文化祭」では地域の小中学生による演奏会が行われている。</p> <p>【工夫している点】ロビーの一角をふれあいコーナーとし、その一部を作品展示スペースにして、保育園児や地域住民の作品を展示。徐々に作品を提供してくださる方が増えている。今後、作品展示を通じ、家族をはじめ、より多くの来館者を呼び込もうとしている。</p>
<p>情報の提供</p>	<p>【現状】コミュニティ便りを毎月発行し、事業内容等をお知らせしている。</p> <p>【特筆すべき成果】「ルーマニアを知ろう」というテーマで地域フォーラムを開催した。地域住民へ本市の友好都市であるルーマニアを知ってもらうという目的で、ルーマニア人のダニエル氏による産業や歴史、文化を紹介し、ワイン・料理によりルーマニアの魅力を感じるとともに、ホストタウンの意味も理解した。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

<p>利用者・利用団体と コミセンとのつながり づくり</p>	<p>【現状】「北町さわやかまつり」や「文化祭」終了後には反省会を行っている。 【工夫している点】反省会を行ったことで、利用団体間で施設運営・利用に関する今後の課題について検討している。 【特筆すべき成果】「北町さわやかまつり」の成果としては、各種の団体がコミセンのその他の行事等に参加してくれる割合が高まった。</p>
<p>地域とコミセンの つながりづくり</p>	<p>【現状】北コミ市場では、地元農家の協力により新鮮な野菜を提供している。15年以上続いている取り組みで地域に定着している。 【工夫している点】地域の方から寄贈されたグランドピアノを使って、地域の方へ音楽を楽しんでもらえるよう、演奏会を定期的を開催している。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員の 人材充実</p>	<p>【現状】運営委員が18名と少ないため、各運営委員の負担が大きい。各団体からの参加、個人的な口コミでの依頼などを試行している。 【工夫している点】運営委員は北町の住民には限っておらず、八幡町や本町など他地域に在住の人も受け入れている。</p>
<p>持続可能な事業の 実施</p>	<p>【現状】「パソコン学習会」は19年の歴史があるが、運営する側も高齢になってきており、参加者数も減っている。基礎編と応用編に分けて実施しているが、今後中止するのか、形をかえて実施するか（スマートフォン研修など）検討している。</p>
<p>活発な協議会運営</p>	<p>【現状】若い運営委員が入ってきて、世代交代が進みつつある。 【工夫している点】運営委員会を一部午前から夜間に変更し、日中仕事がある方も参加しやすく改善している。</p>

④ 適正な運営

<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営</p>	<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 運営委員会にて毎回議論し、運営委員会で議決を経てルールとなる。 ▶ 決まったルールについては、窓口担当者会議等で徹底して情報共有をしている。 ▶ 利用者には、北コミュニティ便り、ホームページ、掲示板にて周知を行っている。
<p>個人情報の保護</p>	<p>個人情報の適切な取り扱いを行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 申請書等の保存期限は保管規程を設け、定められた期限を過ぎたらシュレッダーで処理している。 ▶ 申請書等は、鍵のかかるロッカーで管理している。
<p>事業計画に沿った運営</p>	<p>事業計画に沿った運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 年度計画における実施 2 か月前くらいに、運営委員会等で仕事分担等の打ち合わせを行う。 ▶ 文化祭は実行委員会を立ち上げ検討し、反省会も必ず実施している。 ▶ 事業内容については、参加団体からの意見もできる範囲で取り入れ、毎年少しずつ合理化する方向で変えている。
<p>経費削減と予算の適正な執行</p>	<p>経費削減と予算の適正な執行に向けて、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。</p>

⑤ 施設・設備の管理

<p>異常時の市への連絡・報告</p>	<p>異常時に市への連絡・報告が迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 窓口当番が、まず市へ連絡するとともに、代表・副代表に連絡する。 ▶ 一連のマニュアルは事務所に設置している。 ▶ 窓口担当者会議で情報共有するようにしている。
<p>防災・防犯</p>	<p>防災・防犯について、緊急時において迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 防災訓練は年 2 回消防訓練を行い、利用者や地域の関係団体にも参加を呼び掛け、起震車を用いた訓練や放水訓練など、主に体験型の訓練を実施している。 ▶ 上記の訓練とは別に、窓口担当者向けに災害等を想定した実地訓練を行っている。

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 防犯については、利用者の入口を原則正面玄関1か所に限定して、窓口担当者が確認できるようにしているほか、「あそべえ」や警察とも連携をとっている。無線訓練は窓口当番が対応している。
防 火の管理	<p>防火の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 毎日の閉館前に火気点検、週1回の閉鎖障害点検を実施し、点検結果表も保管している。
備 品の管理	<p>備品の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 備品管理の担当者を設置している。 ➤ 備品台帳で管理し、変更があった都度更新をしている。

15. 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

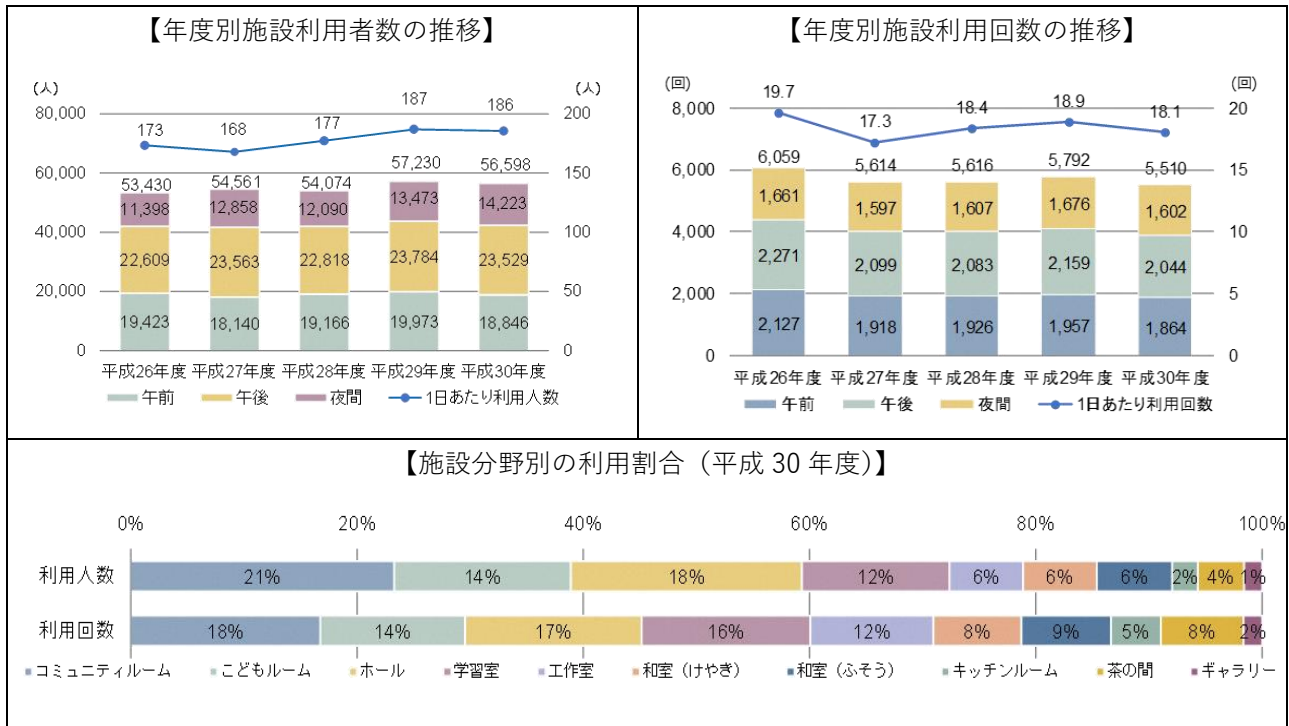
※現在、調整中

けやきコミュニティセンター

16. 施設の概況

(1) 利用状況

- 平成 30 年度の利用者数（総数）は 56,598 人であり、1 日あたりの利用人数は 186 人（開館日数:305 日）であった。過年度と比較すると、過去 3 年間の利用者数（総数）は増加傾向にあるものの前年度と比べると若干減少している。
- 利用回数（総数）は平成 30 年度で 5,510 回、1 日あたり利用回数は 18.1 回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではコミュニティルーム、ホール、学習室の利用割合が他と比べて高かった。
- 特に利用が多い団体の活動分野としては、「文化・芸術」「子育て」「まちづくり」であった。



【利用団体の活動部分野】			
		◎：特に利用実績が多い	○：利用実績がある
1. スポーツ（ヨガを含む）	○	6. 福祉（高齢者向け）	○
2. 文化・芸術	◎	7. 福祉（障害者向け）	○
3. 緑・環境	○	8. 防犯・交通安全	
4. 教育・青少年育成	○	9. 防災	○
5. 子育て	◎	10. まちづくり	◎
その他：			

(2) 主な事業

①事業名	けやきまつり
②事業概要	けやきコミセンが創立前からの活動としてコミセンの基礎となっている事業。3大イベントの一つとして運営委員を割り振り実行委員会制で準備している。話し合いにより内容ややり方もきめているが、運営委員・協力員はもちろん、地域の団体、学校の先生方、大学生、小中高生などもスタッフとなり実行委員を中心に活動している。 主な内容は バザー・フリーマーケット・子供コーナー・屋台（焼きそば・焼き団子・フランクフルト・ピザ・豚汁・ドリンクなど）、成蹊大生による東北支援コーナー、地元野菜の販売・花市・ゲームコーナー・コーヒーコーナーなど。5月の日曜日、参加者の年齢層も幅広く、地域に期待される楽しい事業となっている。またお誘いしやすく、スタッフを経験されて運営委員になれる方もいて、よいつながりが生まれている。
③体制	運営委員：21人以上 協力員：21人以上
④実績	実施回数：年1回 参加人数：約1000人 事業費：170千円
⑤施設	全館・扶桑通り公園

①事業名	けやき夏まつり
②事業概要	3大イベントの一つで実行委員会制。8月最終日曜日、夏の終わりを一緒に楽しもうと、野外映画の会として立ち上がったが、近年は盆踊りを中心に行っている。 盆踊りの練習日を2～3日設けて参加を呼び掛けている。中学校から大太鼓を借り、地域の子供たちのチームが演じて盛り上げている。 屋台（焼きそば・焼き鳥・焼き団子・ピザ・おにぎり・ドリンク・かき氷など）、ステージとして地域の方のフラダンスや大学生のダンス、三味線などもお願いし参加していただいている。恒例となっている成蹊大生によるきもだめしコーナーも人気。 浴衣を着て楽し気に踊る親子などみなさんが気軽に参加し、笑顔があふれる事業。
③体制	運営委員：21人以上 協力員：21人以上
④実績	実施回数：年1回 参加人数：約800人 事業費：120千円
⑤施設	全館・扶桑通り公園

①事業名	どんどこやきとむかしあそび
②事業概要	けやき3大イベントの一つで実行委員会制。緑町コミセン・大野田地域子ども館推進会議（あそべえ）・青少年問題協議会の共催事業。大野田小学校校庭を利用し、学校の多大なる協力のもと行っている。 内容はお正月のお飾りなどを焼き上げ、皆さんの健康を祈り、地域のふるさとづくりをめざす。お汁粉1000食分を前日から作り、ふるまっている。また出し物としてよさこいなどのステージ、人力車の試乗、点火式は地域の年男男女が行う。 また青少協のマシュマロ焼き、大野田地域子ども館推進会議による昔遊びには地域の名人やPTAの委員も一緒に子供たちとけん玉やコマ回し竹馬など昔遊びを指導する。PTAの方や成蹊の学生にはお汁粉などのコーナーのお手伝いにも参加していただいている。共催団体と協力して準備するので、独自のイベントとは違うつながりが生まれる。
③体制	運営委員：21人以上 協力員：21人以上
④実績	実施回数：年1回 参加人数：約1000人 事業費：けやき分55千円
⑤施設	大野田小学校校庭

①事業名	まちづくり局各局（12チームとまちづくり局全体）
②事業概要	けやきコミセン独自のまちづくり事業。この指とまれ方式で、運営委員が1人いて3人以上集まれば、やりたい活動を事業として提案でき、承認されればチームが立ち上がる。現在12チーム（けやきガーデナーズ・けやきあそび隊・よみきかせ紙ふうせん・囲碁の集い・ぱそこん倶楽部・ナイトウォーク・けやき茶社・アートくらぶ・けやき塾・ゲームの会・こもれびひろば・ポッチャの会）がそれぞれの特色ある活動をしている。活動はそれぞれが地域のかたへ参加を呼びかけているのできめの細かいお誘いができる。 ガーデナーズは花いっぱいのもちづくりから発し、週1回の活動によりコミセンの庭は花がきれいと言われている。茶社は男性のカフェで、第3土曜に行い語り合う場として根付いている。こもれびひろばは親子広場として小さな子がいるお母さんが活動の主体となり子育て支援の活動を行っており、親子連れの利用者が増えたように感じる。またフェスタ・まとめの会として活動の照らし合わせ、PRの会も行っている。
③体制	運営委員：0人 協力員：0人
④実績	実施回数：回 参加人数：人 事業費：全体435千円
⑤施設	各々

①事業名	けやき学舎・しゃべり場
②事業概要	創立時より不定期に行っている。日頃の運営や、様々な活動を活発に行っているが、コミュニティのありかたを常に話し合い、何を大事に活動を行うのかを見つめなおすことをしている。運営委員・協力員ほか地域の人の参加もあり、率直な意見を出し合っている。 必ずしも結論がでる話し合いではなく、意見を言う、よく考える、人の意見を聞く力が育つことを目指す。思いがけない気づきがあったり、日頃の疑問が解決したり、学びの場になっている。
③体制	運営委員：1～5人 協力員：1～5人
④実績	実施回数：年2～3回 参加人数：各20人 事業費：3000千円
⑤施設	コミセンの部屋

(3) コミュニティセンター活動体制

○ 平成30年度時点の運営委員数は55名であり、協力員数は約130名である。

17. 評価結果まとめ

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】施設の使い方等を、書面（掲示物）に頼らず説明している。</p> <p>【工夫している点】コミセン内での禁止事項記載の張り紙は極力少なくし、伝えたいことは言葉で伝え、会話を大切にしている。</p>
<p>新しい利用者・利用団体の増加</p>	<p>【現状】近隣に新たな住宅地ができているが、まだ利用者として巻き込めていない点が課題である。</p>
<p>施設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】施設が公園に隣接している。窓が広く、学習室に座っている人達も緑に囲まれて勉強するような雰囲気がある。ギャラリーがあり、絵や写真の発表会などを行うことができる。コミュニティルームがあり、だれでも自由にお茶を飲んだりお弁当を食べたりすることができ、一人で来ても心地よくいられる場所にしてある。窓口の作りが開放的で、仕切りをつくらずに利用者と一緒に話をしながら様々なことができるように空間を作っている。</p> <p>【工夫している点】設えの異なる2つのスペースを学習室として提供し、利用者はニーズに応じて使い方を選択できる。</p>
<p>情報の提供</p>	<p>【現状】年4回コミュニティニュースを発行して、地域にイベント等をお知らせしている。</p> <p>【工夫している点】施設の予約状況をホームページ上で公開している。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

<p>利用者・利用団体と コミセンとのつながり づくり</p>	<p>【現状】地域の諸団体には積極的に関わっている。</p> <p>【工夫している点】地域防災の会を立ち上げたり、福祉の会や大野田地域子ども館推進会議、青少協に運営委員から委員として選出し、その活動を運営委員会で共有したりしている。</p> <p>【特筆すべき成果】3年ほど前から利用者・利用団体に呼びかけ、文化祭・ミニコンサートを開催した。それぞれの活動内容を発表・交流することを通して、利用団体同士のつながりが生まれている。</p>
<p>地域とコミセンの つながりづくり</p>	<p>【現状】障害者、高齢者の施設など、地域の多くの組織とつながりを持っている。一方で、幼稚園、保育園とのつながりはまだ薄い点が課題である。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員の 人材充実</p>	<p>【現状】運営委員全員が係を担っている。</p> <p>【工夫している点】運営委員全員がそれぞれの適性に合った係を担うことで、やりがいを持って活動できている。</p> <p>【特筆すべき成果】一人ひとりの負担を小さくすることで、協議会運営に参加しやすく、運営委員数も多い。</p>
<p>持続可能な事業の 実施</p>	<p>【現状】けやきまつり、けやき夏まつり、どんど焼きとむかしあそびの三大イベントでは、実行委員会制をとっている。</p> <p>【工夫している点】運営委員を3つのグループに分け実行委員会を立ち上げている。そのほかに130人程度いる協力員もスタッフとして入り、実行委員会で準備をしている。</p> <p>【特筆すべき成果】実行委員会は20名程度いるため意見がぶつかることもあるが、話し合いをしながら作り上げる中でチームワークや協力体制ができて、最終的に組織のチームアップにつながっている。</p>
<p>活発な協議会運営</p>	<p>【現状】「まちづくり局」というチームを設けている。個々のチームが様々なアイデアを出し合ってそれぞれプロジェクトを立ち上げている。</p> <p>【工夫している点】「まちづくり局」は運営委員が1人、合計3人以上いればチームとして成立し、活動をする上でのハードルを下げている。</p> <p>【特筆すべき成果】「まちづくり局」は新たに地域活動を行いたいと考えている人が自由に取組を行える場になっている。そうした活躍の場を設けることで、やりがいを高め、運営委員への関心の拡大と定着の推進につながっている。</p>

④ 適正な運営

<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営</p>	<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 年度末に内容を確認している。 ▶ 決まりにない事柄についてはその都度、代表委員、事務局、運営委員会で話し合い、公平な運営に努めている。
<p>個人情報の保護</p>	<p>個人情報の適切な取り扱いを行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 申請書・受付台帳は第三者の目に触れないよう、事務室内には必ず窓口担当がおり、無人状態を作らないようにしている。 ▶ 申請書は1年間キャビネットで保管し、シュレッダーで適切に破棄している。
<p>事業計画に沿った運営</p>	<p>事業計画に沿った運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 全運営委員は三大事業のいずれかの事業の実行委員会に所属する。各事業の実行委員会で話し合い、企画・運営している。 ▶ 三大事業以外の文化企画やバス研修などは、希望者を募り実行委員会を立ち上げ、事業を企画・運営している。 ▶ 実行委員会から運営委員会で準備の進捗状況の共有、結果を報告している。 ▶ 事業によっては参加者にアンケートを依頼することもある。
<p>経費削減と予算の適正な執行</p>	<p>経費削減と予算の適正な執行に向けて、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 主に事務局のメンバーが中心となって構成される予算委員会で予算案を立て、それに沿って活動をしている。事業費は事業ごとに予算を分配している。 ▶ 備品や修繕、前例のないものの購入に関しては運営委員会で承認を得て対応する。 ▶ 年度末に会計報告・予算案の承認を取っている。

⑤ 施設・設備の管理

<p>異常時の市への連絡・報告</p>	<p>異常時に市への連絡・報告が迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 窓口で対応し、代表・事務局長に連絡し、並行して市へ報告している。 ▶ 緊急の場合は窓口から直接市へ報告し、同時に代表・事務局長にも伝えている。
----------------------------	---

<p>防災・防犯</p>	<p>防災・防犯について、緊急時において迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 防災係（自主防災会に所属している運営委員を含む）が防災訓練を企画運営し、内容は代表委員会で検討している。 ➤ ここ数年は消防署、防災協会などの協力をいただき、年に1度訓練を行っている。煙体験訓練や消火器訓練など場面を想定した訓練を毎年実施している。 ➤ 無線訓練は窓口当番が対応している。
<p>防火の管理</p>	<p>防火の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 防火担当者が消火器確認など行っている。 ➤ 運営委員で火災を想定した避難訓練も行っている。 ➤ 点検表をもとに窓口担当者が閉館時にガスの元栓等を確認している。
<p>備品の管理</p>	<p>備品の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 備品係を置き、データで管理をしている。購入時と廃棄時に担当者に連絡をし、更新している。

18. 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

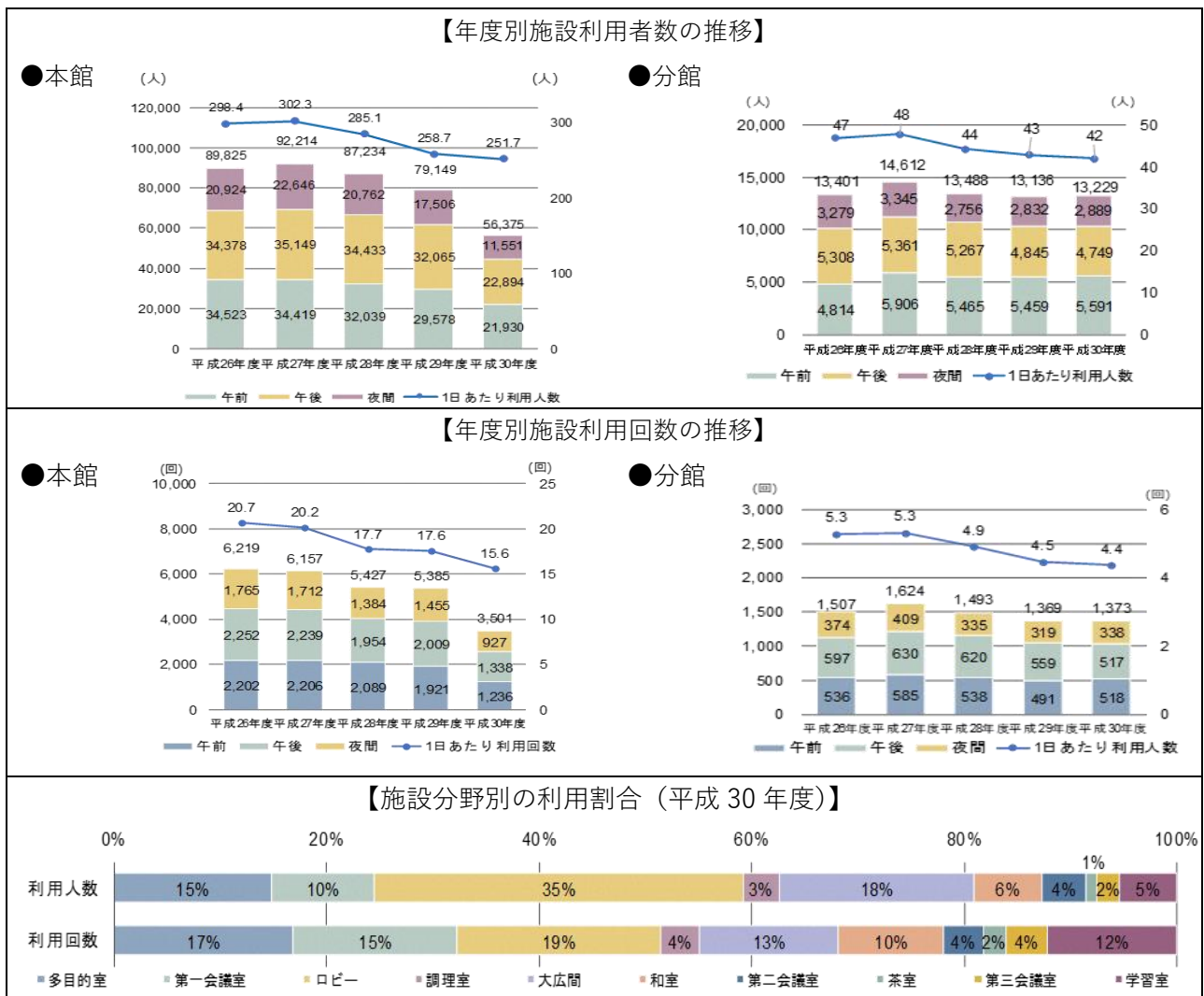
※現在、調整中

中央コミュニティセンター

19. 施設の概況

(1) 利用状況

- 平成 30 年度の利用者数（総数）は本館 56,375 人、分館 13,229 人、1 日あたりの利用人数は本館 251.7 人、分館 42 人（開館日数:本館 224 日、分館 314 日）であった。本館は平成 30 年度 3 か月休館であったものの、利用人数は若干減少傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成 30 年度で本館 3,501 回、分館 1,373 回、1 日あたり利用回数は本館 15.6 回、分館 4.4 回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではロビー、多目的室、第一会議室の利用割合が他と比べて高かった。
- 特に利用が多い団体の活動分野としては、本館が「文化・芸術」「子育て」、分館が「文化・芸術」「福祉（高齢者向け）」であった。



【利用団体の活動部分野：本館】 (◎：特に利用実績が多い ○：利用実績がある)

1. スポーツ（ヨガを含む）	○	6. 福祉（高齢者向け）	○
2. 文化・芸術	◎	7. 福祉（障がい者向け）	
3. 緑・環境		8. 防犯・交通安全	○
4. 教育・青少年育成		9. 防災	
5. 子育て	◎	10. まちづくり	
その他：健康麻雀、囲碁、老壮			
【利用団体の活動部分野：分館】 （◎：特に利用実績が多い ○：利用実績がある）			
1. スポーツ（ヨガを含む）		6. 福祉（高齢者向け）	◎
2. 文化・芸術	◎	7. 福祉（障がい者向け）	
3. 緑・環境		8. 防犯・交通安全	○
4. 教育・青少年育成		9. 防災	○
5. 子育て	○	10. まちづくり	
その他：			

(2)主な事業

①事業名	夏まつり
②事業概要	模擬店（たこ焼・焼き鳥・フランクフルト・焼きそば・かき氷・飲み物 ほか） 縁日（射的・スーパーボール・わなげ ほか）
③体制	運営委員：21人以上 協力員：21人以上
④実績	実施回数：1回 参加人数：1,000人 事業費：200千円
⑤施設	全館 駐輪場ほか

①事業名	文化祭
②事業概要	展示（地域の小中学校・利用団体・障害者施設 など） 芸能祭（利用団体 など） 模擬店（とん汁・フランクフルト・焼きそば・肉まん・シフォンケーキ&コーヒー・地域協力団体・地域の商店 など）
③体制	運営委員：21人以上 協力員：21人以上
④実績	実施回数：1回 参加人数：800人 事業費：200千円
⑤施設	全館 駐輪場ほか

①事業名	もちつき
②事業概要	裏庭にて子どもと大人でもちつきを行う。 地域住民の皆さま（400名）に配布する。
③体制	運営委員：21人以上 協力員：16～20人
④実績	実施回数：1回 参加人数：450人 事業費：70千円
⑤施設	裏庭・1～2階

①事業名	①地域事業部 ②青少年部
②事業概要	①歩こう会・ロビーライブ・料理・講演会・日帰りバス旅行 等 ②キッズフェスタ・スライム・プラバンで小物づくり 等
③体制	運営委員：21人以上 協力員：6～10人
④実績	実施回数：12回 参加人数：500人 事業費：180千円
⑤施設	調理室・多目的室・ロビー ほか

①事業名	①桜まつり ②コミセン主催教室
②事業概要	①プラバンプレートで参加 600名 ②ストレッチ教室（月2回） 料理教室 茶道教室
③体制	運営委員：21人以上 協力員：1～5人
④実績	実施回数：27回 参加人数：1,500人 事業費：90千円
⑤施設	調理室・茶室・大広間 ほか

(3)コミュニティセンター活動体制

○平成30年度時点の運営委員数は25名であり、協力員数は54名である。

20. 評価結果まとめ

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】改修工事（2018年11月～2019年7月）に伴う中央コミセンの長期休館の影響で中町集会所への予約申し込みが集中し、早朝から並ぶ利用者が多かった。</p> <p>【工夫している点】中町集会所においては近隣住民への影響を鑑みて、運営委員会で協議を重ね、平成30年11月から、予約開始時間を午後からに変更した。変更にあたってしばらくの間、声掛けや掲示物での周知を行ったため、混乱なく変更ができた。なお、中央コミセンの改修工事が完了して申し込みが落ち着いたことと利用者の意向を踏まえ、令和2年度からは予約開始時間を元に戻している。</p>
<p>新しい利用者・利用団体の増加</p>	<p>【現状】地域行事に参加することで、地域の輪を広げている。大型館であり、また交通アクセスがよいこと、市外利用を認めていることから、市外も含めて多様な市民・地域団体が利用している。</p> <p>【工夫している点】来場者の多い「武蔵野桜まつり」に毎年協力し、協議会の活動を知ってもらうきっかけをつくっている。</p>
<p>施設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】中央コミセン舞台付き大広間は、使い勝手が良く利用団体からは好評である。また、改修後は調理室、トイレともに明るく衛生的で使いやすくなった。利用者からはエレベーター設置の要望が出ている。中町集会所は三鷹駅に近く交通の便が良いため、他市からの利用者が多い。</p>
<p>情報の提供</p>	<p>【現状】コミセンだよりを年4回、各5,200部発行している。</p> <p>【工夫している点】コミセンだよりでは、協議会・地域の情報、地域団体・イベント等の紹介をしている。また、地域の小学校へ子ども参加の事業のチラシ配布をお願いしている。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利用者・利用団体と コミセンとのつながり づくり	<p>【現状】中央コミセンのロビーをミニギャラリーとして利用団体に貸し出している。</p> <p>【工夫している点】館内清掃では利用団体に呼びかけを行い、中央コミセン・中町集会所合わせて 80～100 名程度の参加がある。</p>
地域とコミセンの つながりづくり	<p>【現状】「夏まつり」「文化祭」「もちつき」は中央コミセンの 3 大イベントであり、中央コミセン正面にある第一中学校生徒の協力を得ている。「夏まつり」「文化祭」では、地域団体などに模擬店の出店を依頼している。そのほか、「文化祭」では地域の小中学校の児童・生徒及びデイケアセンター、利用団体の作品発表の場として、1 週間ほどロビーにて展示を行っている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

運営委員・協力員の 人材充実	<p>【現状】運営委員が不足している。当該エリアに新設されたマンション入居者にもまつり、文化祭、その他の事業に参加してもらい、コミセン理解から始める予定である。</p> <p>【工夫している点】コミセンが次世代につながるためには、小中学生に関わってもらうことが重要なので、小中学生向けの事業の充実（中コミキッズフェスタや流しそうめん等）を図っている。</p>
持続可能な事業の 実施	<p>【現状】これまで、ストレッチ教室以外の事業を中央コミセンで行っていたが、改修工事による 7 か月の休館をきっかけに、今年度は中町集会所でも事業を開催した。</p> <p>【工夫している点】中央コミセン・中町集会所と 2 つの施設がある利点を活かして、今後、両館を活用した事業を検討している。</p>
活 発な協議会運営	<p>【現状】毎月一回の運営委員会を中心に、運営委員全員が協議会運営に真剣に携わっている。</p>

④ 適正な運営

会 則や利用の決ま りに沿った公平な運 営	<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 全て運営委員会で協議、決定後、館内への掲示、コミセンだより、ホームページにて利用者への周知を行っている。 ➤ 平成 30 年度に中央コミセンを改修工事で休館した際、中町集会所への予約が集中し、近隣から苦情を受けたため、予約開始時間を午後に変更した。改修工事が終わったことと、利用者からも元に戻してほしいとの要望もあったことから、現在では元の時間に戻している。
--	---

<p>個人情報の保護</p>	<p>個人情報の適切な取り扱いを行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 利用者情報（氏名と住んでいるエリア程度の情報）は、館外持ち出し厳禁とし、保管期間（概ね1年）終了後シュレッダーで破棄している。 ▶ 学習室利用は登録制でカードを発行しているため、連絡先等も聞いている。
<p>事業計画に沿った運営</p>	<p>事業計画に沿った運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 協議会事業（夏まつり、文化祭、餅つき）に関しては役員会主導で行っている。地域事業部、青少年部は各部署で企画立案し、役員会及び運営委員会に企画書を提出、承認を得た上で実行し、実施後は報告書を作成し、運営委員間での共有を図っている。報告書はファイリングし、運営委員がいつでも確認できるよう保管している。 ▶ 報告書や参加者のニーズを受け、次の事業企画に役立てている。 ▶ 広報部、総務部は廃止し、分割・分担して、運営委員全員が関わるような形に変えている。 ▶ 地域の他団体にも企画段階から入ってもらえないか検討している。
<p>経費削減と予算の適正な執行</p>	<p>経費削減と予算の適正な執行に向けて、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 事業では、参加者の満足度をあげるため、数量・種類の工夫をしている。 ▶ 可能な限り、市内事業者からの購入を行っている。

⑤ 施設・設備の管理

<p>異常時の市への連絡・報告</p>	<p>異常時に市への連絡・報告が迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 異常時対応は委員長（不在時は副委員長）が行っている。 ▶ 窓口担当者が即座に対応できるよう、連絡先・手順等の掲示は行っている。
<p>防災・防犯</p>	<p>防災・防犯について、緊急時において迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 年2回中央コミセンと中町集会所で、運営委員を対象に警察署員や消防署員を招き、防災訓練を行っている。 ▶ 中央コミセン、中町集会所それぞれの防火管理者を中心として訓練を企画・実施している。 ▶ 中央福祉の会や一中防災の会とも連携している。
<p>防火の管理</p>	<p>防火の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 窓口担当が変わる都度（1日3回）チェック表に記入している。 ▶ 調理室は、使用時以外は施錠し、使用後は都度元栓の確認をしている。

備品 の管理	備品の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。 ▶ 購入備品は、速やかに備品台帳へ記載する。廃棄の場合は日付を記入後廃棄品とし、定期的なチェックを行っている。
---------------	---

21. 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

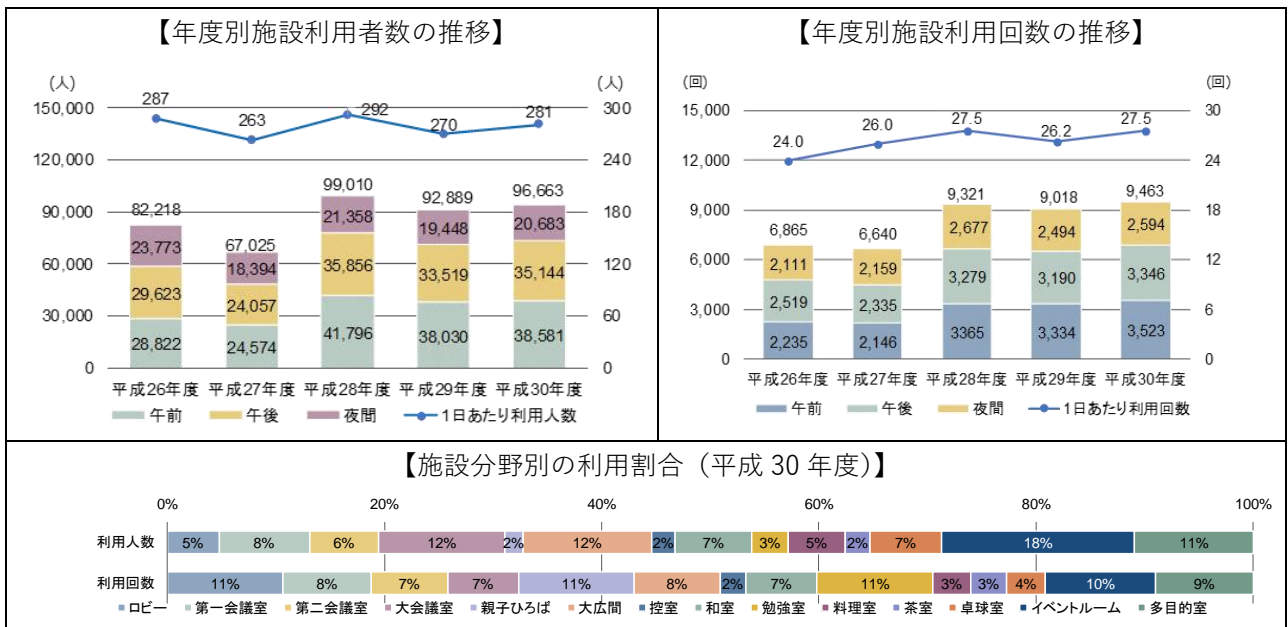
※現在、調整中

西久保コミュニティセンター

22. 施設の概況

(1) 利用状況

- 平成 30 年度の利用者数（総数）は 96,663 人であり、1 日あたりの利用人数は 281 人（開館日数:344）であった。過年度と比較すると、過去 3 年間の利用者数（総数）はほぼ横ばいである。
- 利用回数（総数）は平成 30 年度で 9,463 回、1 日あたり利用回数は 27.5 回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではロビー、親子広場、勉強室の利用割合が他と比べて高かった。
- 特に利用が多い団体の活動分野としては、「スポーツ」「文化・芸術」「福祉（高齢者向け）」であった。



【利用団体の活動部分野】 (◎：特に利用実績が多い ○：利用実績がある)			
1. スポーツ（ヨガを含む）	◎	6. 福祉（高齢者向け）	◎
2. 文化・芸術	◎	7. 福祉（障がい者向け）	○
3. 緑・環境	○	8. 防犯・交通安全	○
4. 教育・青少年育成	○	9. 防災	○
5. 子育て	○	10. まちづくり	○
その他： マンション管理組合			

(2) 主な事業

①事業名	多摩湖往復ナイトハイク 実行委員形式
②事業概要	<p>厳寒期の地域の恒例行事で、1月第3土・日を予定している。五中通学区の中学生を対象にした事業で、深夜26kmを踏破し、中学生生活の貴重な経験と完歩する事で自信と心身の健全な成長の一助にする。</p> <p>共催：西久保コミセン、関前コミセン、青少協第五地区、青少協関前南地区、五中PTAの五団体。</p> <p>担当：行動隊（生徒と一緒に歩く）朝食隊（西久保コミセンで朝食を作る）、お汁粉隊（多摩湖でお汁粉を提供）、チェック隊（往復の小平・多摩湖・コミセンでチェックする）</p> <p>行動隊には、地域の方、教育委員、亜細亜大学の教授・学生等50名程が協力。</p>
③体制	運営委員：0人 協力員：0人
④実績	実施回数：平成30年度で42回 参加人数：160人 事業費：分担金 50千円+100千円
⑤施設	夜間～早朝なので全館使用。

①事業名	西久保コミセンふれあいまつり 実行委員会形式
②事業概要	<p>地域住民とのコミュニティ事業として、10月の10時～16時に実施。コミセン利用者の作品展示（2日間）、ショウタイム（コミセン利用者の芸能お披露目）、模擬店、ゲーム、バルーン等。子ども実行委員も参加している。</p> <p>共催：西一町会、西久保福祉の会、青少協第五地区</p> <p>また、8月に実施する地元感謝祭（夏祭り）では、コンサートやガーデンパーティーを行っている。</p> <p>共催：西一町会、西久保福祉の会、川路さんち</p>
③体制	運営委員：21人以上 協力員：6～10人
④実績	実施回数：1回 参加人数：2,500人 事業費：-円
⑤施設	全館

①事業名	子ども科学教室
②事業概要	<p>楽しみながら科学への理解を深めることを目的に、小学3年生～6年生の各30名が参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏の天体観望会：星のソムリエの協力で天体望遠鏡で夜空をみる。 ・科学実験など：きらめきライブ多摩、JAXA、むさしの子どもエコフォーラムの協力がある
③体制	運営委員：6～10人 協力員：1～5人
④実績	実施回数：年3回 参加人数：延べ130人 事業費：30千円
⑤施設	地階・多目的室、庭

①事業名	七夕まつりと&カフェ
②事業概要	<p>七夕飾りをつくりカフェで憩いのひとときを過ごす。運営委員の男性陣（笹取り隊）8名ほどで竹藪のあるご近所に竹4本を切り取ってくる。子ども達の持ち帰る小笹をつくる。作りおいた折り紙、短冊を飾る。参加者に折り紙の折り方を教え、短冊に願い事を書いてもらう。カフェは西久保福祉の会が担当している。</p> <p>協力：西久保福祉の会、川路さんち</p>
③体制	運営委員：6～10人 協力員：1～5人
④実績	実施回数：1回 参加人数：150人 事業費：-円
⑤施設	地階全フロア

①事業名	ふれあいルーム
②事業概要	<p>西久保にお住いの70歳以上のかたに手作りのお食事をしながら、交流を深め、午後からは希望者に習字を教えている。今月のお楽しみとして、毎回テーマに沿ってお話をお願いしている。（武蔵野警察、消費者センター、消防署、市の防災課の方など）一人暮らしの方は、月に一度をととても楽しみにしている。料理は福祉の会・エプロンの会が担当している。</p> <p>共催：西久保福祉の会</p>
③体制	運営委員：1～5人 協力員：0人
④実績	実施回数：月1回 参加人数：約40人 事業費：円
⑤施設	大会議室、料理室、和室

(3) コミュニティセンター活動体制

平成30年度時点の運営委員数は39名であり、協力員数は21名である。

23. 評価結果まとめ

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】窓口対応に関する取り組みとして、2カ月に1回の頻度で窓口会議を開催している。</p> <p>【工夫している点】利用者の要望を反映して、休館日を月1日とした。また、利用者の利便性向上のため、電話による仮予約を可能とし、3日以内に窓口で本予約を受け付けている。</p>
<p>新しい利用者・利用団体の増加</p>	<p>【現状】多摩湖ナイトハイクやこども科学教室など、子ども向けの事業に力をいれていることから、子どもや若年層の利用が多くなっている。また、子育て関係の団体の利用が多いのが特徴である。</p>
<p>施設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】夜間に大声や音の出る活動（演劇等）を行う団体がある。</p> <p>【工夫している点】<u>利用時間帯</u>や活動内容によって、合った部屋を案内（例夜間に大声や音の出る活動は地下の利用や音のセーブを依頼）している。</p>
<p>情報の提供</p>	<p>【現状】<u>年4回</u>、コミュニティだよりを発行している。</p> <p>【工夫している点】コミュニティだよりに協議会の主催事業やコミセンの利用案内（部屋ごとの使い方）を毎号掲載し、コミセンの周知をしている。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

<p>利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり</p>	<p>【現状】コミュニティだよりで利用団体の紹介を掲載している。</p> <p><u>親子ひろばの「西久保コミセンひろばピノキオ」など、市や他団体との共催事業を通して、その利用者間につながりが生まれている。</u></p>
<p>地域とコミセンのつながりづくり</p>	<p>【現状】「地元感謝祭」や「ふれあいまつり」などの大規模事業等について地域の様々な団体との共催で実施している。西久保コミセンが拠点となって、さまざまな団体が連携して事業を実施する体制ができている。</p> <p>【工夫している点】共催を実現するための工夫としては、毎年度の期初に、地域の各団体の代表が集まって、各団体の年間スケジュールを共有・調整する話し合いの場を設けている。そこで、イベントが被らないよう調整したり、共催の可能性について議論したりしている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員の 人材充実</p>	<p>【現状】運営委員が高齢化する中で、運営側のマンパワーが手薄になってきている。</p> <p>【工夫している点】運営委員の人数の拡大はすぐにはできないので、近年では事業を実施する際は基本的には他団体との共催事業とし、幅広い主体を巻き込んで事業を実現している。</p>
<p>持続可能な事業の 実施</p>	<p>【現状】運営委員の高齢化も進む中で、「多摩湖ナイトハイク」など大規模事業の継続的な実施が体力的に難しくなっている。</p> <p>【工夫している点】<u>関前コミセンと青少協の第5地区、関前南地区、五中のPTAの5団体で共催事業として実施しており、</u>現在では、<u>亜細亜大学の学生にもボランティアとして参加してもらっている。</u></p>
<p>活発な協議会運営</p>	<p>【現状】協議会会則などの見直しを検討している。</p> <p>【工夫している点】<u>役員の選任方法等の会則の見直し</u>を検討するにあたり、参考とするため他の協議会にアンケートを実施した。</p>

④ 適正な運営

<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営</p>	<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 会則に疑義や問題がある場合等、必要に応じて会則検討委員会が設置され、内容を検討する。変更する場合は役員会・運営委員会を経て住民総会で決定している。 ▶ 利用の決まりについては、窓口会議で検討され、大半は役員会で決定し、運営委員会で報告している。
<p>個人情報の保護</p>	<p>個人情報の適切な取り扱いを行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 来館者の受付簿は、記入時は表紙で隠し、退室時に鍵のかかるロッカーに収納する。部屋の申請書は1年保管で同様に収納している。
<p>事業計画に沿った運営</p>	<p>事業計画に沿った運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 前年末に翌年度の事業計画を立てる。事業の担当者は、事業部会の中で担当者を希望制で決める。事業を実施した当日のうちに担当者どうしで反省会をし、後日、運営委員会で報告している。 ▶ 年2回事業部会を開いて、全体の反省と来年の計画をたてる。
<p>経費削減と予算の適正な執行</p>	<p>経費削減と予算の適正な執行に向けて、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 四半期ごとに役員会で執行率を示し、執行状況が適正か確認をする。案件に応じて相見積もりを行うなど、経費節減の工夫をしている（コピー機の

	リース代が月 37,000 円から 17,000 円に下がった)。
--	-----------------------------------

⑤ 施設・設備の管理

異常時の市への連絡・報告	<p>異常時に市への連絡・報告が迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 異常内容により異なるが、適切な処置後、委員長から市民活動推進課に連絡する。
防災・防犯	<p>防災・防犯について、緊急時において迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 防災訓練は最低年に1回は実施している。令和元年度は9月に地域団体（西久保1丁目会、西久保福祉の会、川路さんち）と共催で煙体験、初期消火、AED取扱応急処置を実施した。地域住民およびコミセン利用者に参加してもらっている。 ▶ 今後は地域の防災関係団体（避難所運営組織）とも連携していきたいが、一丁目の避難所が第五中学校、二丁目・三丁目の避難所が第五小学校と分かれているという課題はある。
防火の管理	<p>防火の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 料理室利用の団体には専用チェック表で詳細をチェックする。 ▶ 防災訓練で、非常口、避難誘導、初期消火訓練を行う。
備品の管理	<p>備品の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 会計と総務の担当者が備品台帳に記載をしている。廃棄備品については更新されていない箇所があるので、今期に整理する事になっている。

24. 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

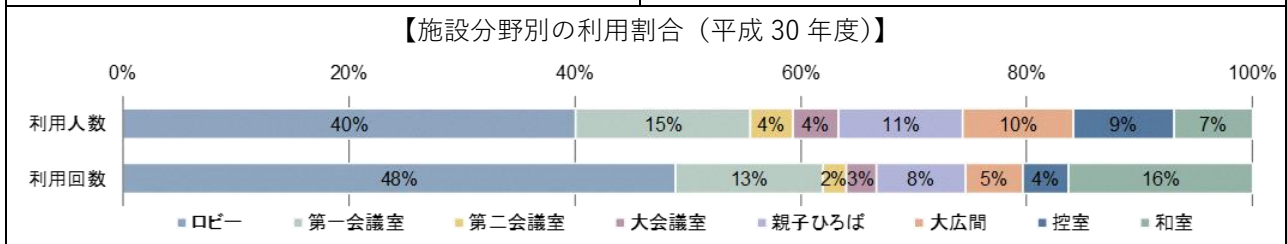
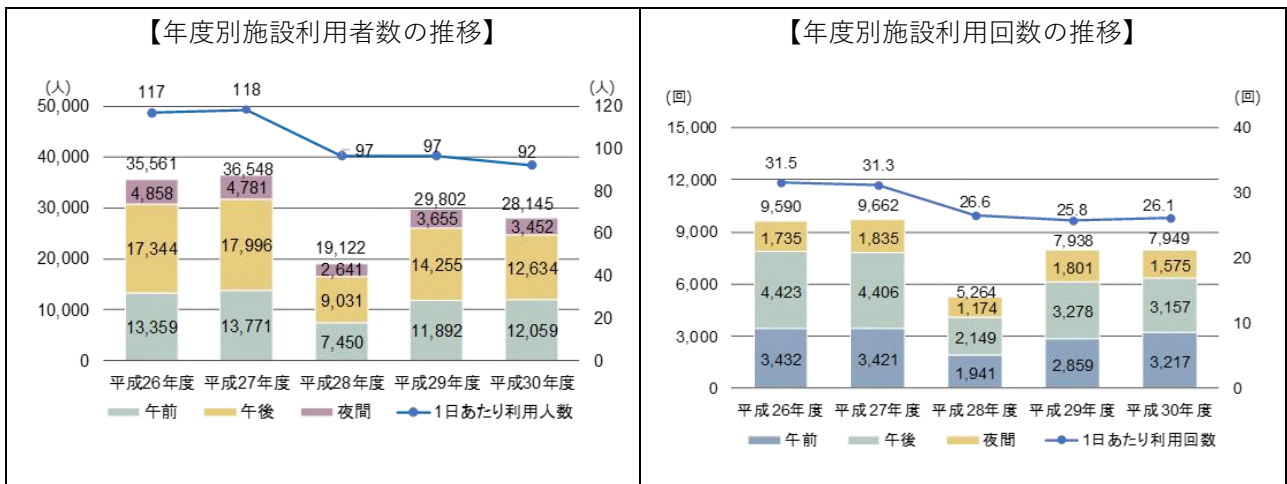
※現在、調整中

緑町コミュニティセンター

25. 施設の概況

(1) 利用状況

- 平成 30 年度の利用者数（総数）は 28,145 人であり、1 日あたりの利用人数は 92 人（開館日数:305 日）であった。過年度と比較すると、過去 2 年間の利用者数（総数）はほぼ横ばいであるが、長期で見ると減少傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成 30 年度で 7,949 回、1 日あたり利用回数は 26.1 回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではロビー、和室の利用割合が他と比べて高かった。
- 特に利用が多い団体の活動分野としては、「文化・芸術」であった。



【利用団体の活動部分野】		
（◎：特に利用実績が多い ○：利用実績がある）		
1. スポーツ（ヨガを含む）	○	6. 福祉（高齢者向け）
2. 文化・芸術	◎	7. 福祉（障がい者向け）
3. 緑・環境		8. 防犯・交通安全
4. 教育・青少年育成		9. 防災
5. 子育て	○	10. まちづくり
その他：		

(2) 主な事業

①事業名	地域ふれあいまつり
②事業概要	テーマは「笑顔でつどう みんなの 緑町コミセン」で、近くの保育園児、老人ホームや近隣の方々の作品展、地域団体の活動報告を行ったほか、無料の自分の写真入り来年度のカレンダー作りやバザーや模擬店（玉こん・焼きそば・ポップコーン・焼きだんご・焼き鳥）、その他無料で抹茶コーヒーのサービスをした。天気に恵まれたので、コミセン北側のテニスコートをお借りして、子供達の遊びの広場を作り、紙飛行機・ミニサッカー・輪投げ・ミニ四駆・シャボン玉・段ボール遊びを用意して、子供達の歓声が響いた。 平成30年10月20日～21日
③体制	運営委員：21人以上 協力員：21人以上
④実績	実施回数：1回 参加人数：690人 事業費：154千円
⑤施設	全館・北側テニスコート3面

①事業名	子どもまつり
②事業概要	ホールの中に台を作り、樋で流して、雨になっても部屋の中で食べられる流しそうめんを開催した。楽しいゲームとして、ペットボトルのボーリングやスーパーボール、輪投げ、的の得点に投げて遊ぶキャッチボールやシャボン玉などを行った。
③体制	運営委員：11～15人 協力員：6～10人
④実績	実施回数：1回 参加人数：135人 事業費：19千円
⑤施設	ホール・プレイルーム・調理室・玄関前

①事業名	サマーコンサート
②事業概要	神村 英男バンドによるジャズ フェスティバル (トランペット・ドラム・ベース・ピアノ) 昭和のなつかしい名曲の数々を生バンドで演奏した。
③体制	運営委員：11～15人 協力員：0人
④実績	実施回数：1回 参加人数：91人 事業費：29千円
⑤施設	ホール・プレイルーム・音楽室

①事業名	子どもクリスマス会
②事業概要	人形劇団こぱんを迎えて「金のがちょう」を上演して頂いた。
③体制	運営委員：11～15人 協力員：0人
④実績	実施回数：1回 参加人数：107人 事業費：83千円
⑤施設	-

①事業名	卓球楽しみ会
②事業概要	初心者でも楽しく出来るように考えてのダブルス選で和気藹々卓球に打ち込んだ。
③体制	運営委員：6～10人 協力員：6～10人
④実績	実施回数：2回 参加人数：36+33人 事業費：14千円
⑤施設	ホール・プレイルーム

(3) コミュニティセンター活動体制

○ 平成30年度時点の運営委員数は26名であり、協力員数は63名である。

26. 評価結果まとめ

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】午前9時30分から午後9時30分の開館時間だが、開館を待つ利用者がある一方で、夜間の利用者が少ない。</p> <p>【工夫している点】利用者の利用状況を鑑みて、開館時間を30分前倒した。</p>
<p>新しい利用者・利用団体の増加</p>	<p>【現状】世代を問わず、誰もが参加できるように「みんなの広場」という事業を実施している。</p> <p>【工夫している点】フラダンスや音楽鑑賞などテーマを決める時もあれば、テーマを決めず、自由に楽しめる場を用意し、気軽にコミセンを訪れるきっかけをつくっている。</p>
<p>施設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】エレベーターが設置されたことで、車いすの方でも2階が利用できるようになった。地域ふれあいまつりでも、エレベーターができたことで、展示物を2階に設置することができるようになった。</p> <p>【工夫している点】部屋の出入りを容易にするため、スロープを用意した。</p>
<p>情報の提供</p>	<p>【現状】コミセンだよりは担当の負担が大きく課題がある。</p> <p>【工夫している点】継続して情報発信をするために、掲載する情報量に応じて紙面の増減を柔軟に対応している。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

<p>利用者・利用団体と コミセンとのつながり づくり</p>	<p>【現状】地域ふれあいまつりでは、利用団体や地域の各団体に積極的に参加を呼びかけ、相互につながる機会をつくっている。</p>
<p>地域とコミセンの つながりづくり</p>	<p>【現状】事業実施する上で、地域の様々な団体との連携に注力している。 【工夫している点】地域ふれあいまつりでは、地域の保育園や高齢者施設による作品の展示などが行われている。また、青少協の協力を得て、子ども向けの事業（テニスコートを活用したイベント等）を実施している。また、第四中学校とのつながりについても防災訓練や卒業式・入学式へのコミセン委員の参加などがある。 【特筆すべき成果】コミセンも参加して、町会や商店街など10団体程度の地域団体が集まって、地域課題について話し合う「緑懇話会」を実施している。 <u>過去には、地域の交通アクセスについて緑懇話会で話し合い、市とバス会社に要望し協議を進めることで、緑町2丁目のURと都営住宅間の道路整備と新たなバスルートの開通（平成24年）につながった。</u></p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員の 人材充実</p>	<p>【現状】子どもまつりなどのイベント実施時に、大学生にボランティアで手伝ってもらっている。 【工夫している点】いきなり運営委員になってもらうことは難しいため、まずは協力委員になっていただいた後に運営委員になってもらうなど段階的に人材を集めている。若い人の中には、地域ふれあいまつりで焼きそばを焼くなどのスポット的な関わりであればできるという人も多いことから、まずは協力委員として参加からはじめてもらっている。また、地域ふれあいまつりに来てくれた若い参加者にも声かけを行っている。</p>
<p>持続可能な事業の 実施</p>	<p>【現状】コミセンに来られない方にも協議会の事業を楽しんでもらうため、出前講座を開催している。 【工夫している点】上記事業は、<u>高齢者はコミセンまで行くのが大変であるという「地域懇談会」</u>で出た意見を反映したものであり、<u>コミセンを離れ、近隣の都営住宅の集会所で輪投げ大会や演奏会を開催し、地域に密着したコミュニティ活動を行っている。</u></p>
<p>活発な協議会運営</p>	<p>【現状】毎月窓口会議を開催している。 【工夫している点】気を付けることや、対応する上での疑問点などを話し合うことで、協議会全体で情報の共有や問題解決が適切にできている。</p>

④ 適正な運営

<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営</p>	<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 窓口対応等で何かあればノートに記入して情報を共有している。重要なものは運営委員会で協議している。運営委員のほとんどが窓口を担当しており、窓口会議と運営委員会を同日に連続して行っているため、円滑に情報を共有できる。
<p>個人情報の保護</p>	<p>個人情報の適切な取り扱いを行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 申請書は、コミセン事務室内キャビネットで保管している。 ➤ 受付簿は、1か月でシュレッダーにかけ廃棄している。
<p>事業計画に沿った運営</p>	<p>事業計画に沿った運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 毎年くじで3つのグループに分かれ、年間事業計画に沿って担当者を振り分ける（各グループ7名程度。副委員長が1名ずつ入る）。グループと実行委員会に分かれて事前打ち合わせから各準備まで実行し、結果は運営委員会で報告する。毎年グループが変わることで幅広く事業に関わることができる。「みんなの広場」は、グループごとに自由に企画している。 ➤ 年末に翌年度の事業計画をたてる際に、新規事業の提案や、既存事業の見直しを行っている。 ➤ 利用者への声掛けにより実現した事業がある。利用者の活動の発表の場を兼ねており、出演者・観客ともに好評である（フラダンス発表会、ジャズ演奏会など）。
<p>経費削減と予算の適正な執行</p>	<p>経費削減と予算の適正な執行に向けて、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 事業ごとに予算を立てて、計画通りに執行するように努力している。 ➤ 修理・備品購入などは運営委員会で話し合っている。

⑤ 施設・設備の管理

<p>異常時の市への連絡・報告</p>	<p>異常時に市への連絡・報告が迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 異常時発生時の窓口担当者が、市民活動推進課と委員長に連絡する。
<p>防災・防犯</p>	<p>防災・防犯について、緊急時において迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 防災訓練は毎年行っている。数年に一度、消防署立ち合いのもとで行い、助言をもらっている。 ➤ 防犯教室は、警察署の防犯課に講和を依頼し、年1回実施している（今年

	は新型コロナウイルス感染症防止のため順延)。
防 火の管理	<p>防火の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 連絡事項があれば、防火管理者が運営委員会で報告している。 ➤ 夜の窓口当番が、館内チェック表（施錠・ガス等）に基づき毎日点検を行っている。
備 品の管理	<p>備品の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 備品台帳の記入漏れ等の見直しを今年度行う予定である。

27. 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

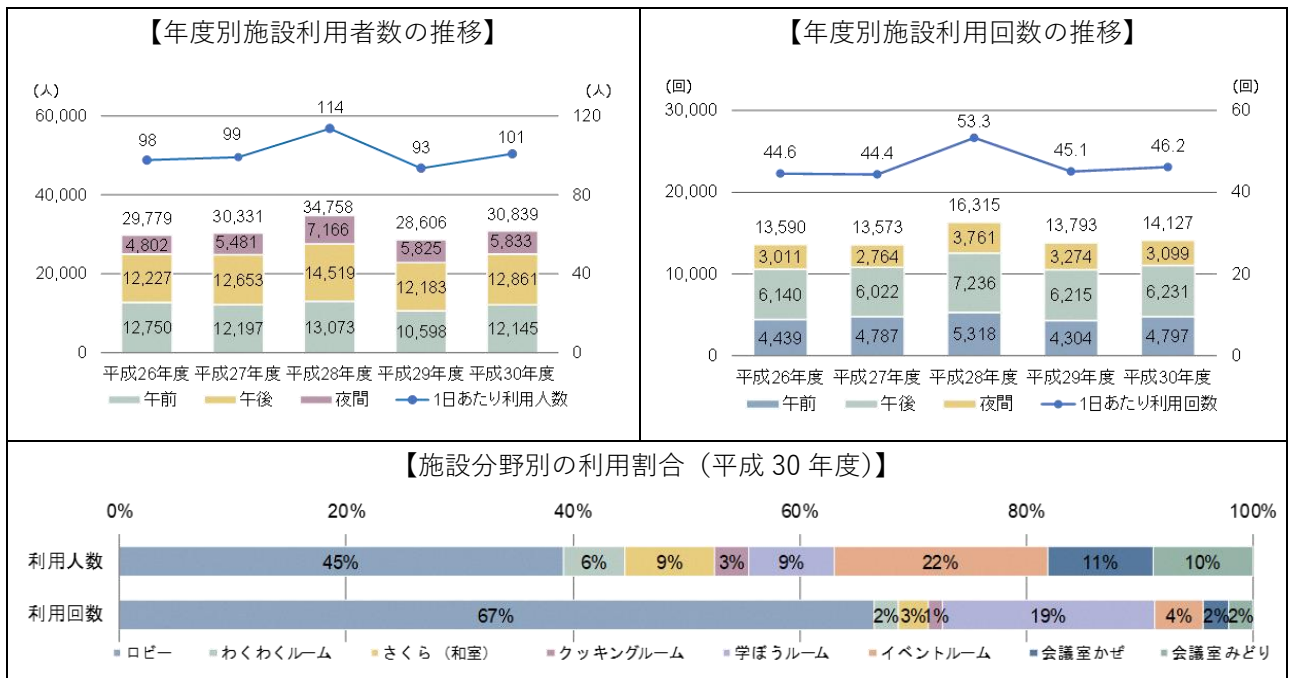
※現在、調整中

八幡町コミュニティセンター

28. 施設の概況

(1) 利用状況

- 平成30年度の利用者数（総数）は30,839人であり、1日あたりの利用人数は101人（開館日数:306日）であった。過年度と比較すると、過去3年間の利用者数（総数）は減少傾向にあるが、昨年度と比較するとやや持ち直している。
- 利用回数（総数）は平成30年度で14,127回、1日あたり利用回数は46.2回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではロビーの利用割合が他と比べて極めて高かった。
- 特に利用が多い団体の活動分野としては、「文化・芸術」「子育て」「福祉（高齢者向け）」であった。



【利用団体の活動部分野】		（◎：特に利用実績が多い ○：利用実績がある）	
1. スポーツ（ヨガを含む）	○	6. 福祉（高齢者向け）	◎
2. 文化・芸術	◎	7. 福祉（障がい者向け）	○
3. 緑・環境	○	8. 防犯・交通安全	○
4. 教育・青少年育成	○	9. 防災	○
5. 子育て	◎	10. まちづくり	○
その他：企業の会議等、高校生の勉強、マンション組合の会議や総会			

(2) 主な事業

①事業名	コミセンまつり
②事業概要	・展示(個人・サークル・団体) ・芸能(イベント・サークル出演) ・模擬店
③体制	運営委員：21人以上 協力員：21人以上
④実績	実施回数：年1回 2日間 参加人数：824人 事業費：271千円
⑤施設	全館・クラルテの敷地を駐輪場としてレンタル

①事業名	新春のつどい
②事業概要	・新春を地域で祝う会
③体制	運営委員：11~15人 協力員：0人
④実績	実施回数：年1回 参加人数：56人 事業費：130千円
⑤施設	2階すべて

①事業名	歩こう会・植物に親しむ会(お出かけしよう)
②事業概要	・鹿野大仏と周辺散策 ・コリアンタウン散策 ・新・北斎展にいこう ・歩こう会 小田原城
③体制	運営委員：11~15人 協力員：0人
④実績	実施回数：年2~3回 参加人数：58人 事業費：60千円
⑤施設	-

①事業名	地域カラオケ懇親会
②事業概要	・午前から午後の時間をとって地域の人達で食事とカラオケを楽しみながら懇親を深める。
③体制	運営委員：1~5人 協力員：0人
④実績	実施回数：年1~2回 参加人数：37人 事業費：10千円
⑤施設	イベントルーム・会議室

①事業名	はちコミ映画会
②事業概要	・映画鑑賞後懇親会
③体制	運営委員：1~5人 協力員：0人
④実績	実施回数：年1~2回 参加人数：1回40人 事業費：3千円
⑤施設	イベントルーム・ラウンジ

(3) コミュニティセンター活動体制

○平成30年度時点の運営委員数は25名であり、協力員数は20名である。

29. 評価結果まとめ

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】住宅街にあり、また、高校生などが勉強で利用することが多い。</p> <p>【工夫している点】多くの方に利用してもらうため、当日その時間帯に部屋が空いていれば、1名からでも申し込みを受け付けて2時間まで利用ができるようにしている。また、ホームページで予約状況が確認できるようになっている。</p>
<p>新しい利用者・利用団体の増加</p>	<p>【現状】子どもを対象にした事業を増やしている。それによって、保護者と子どもの利用が増えている。</p> <p>【工夫している点】子ども向けのクッキング教室を開催するなど、親子で楽しめる事業を展開している。</p>
<p>施設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】2階ラウンジを学ぼうルーム利用者の一時休憩場所として、また、2人以下の事前予約ができない利用者が当日記名のみで利用できる場所としている。</p> <p>【工夫している点】学ぼうルームが満員になる時期は、空いている部屋を学ぼうルームとして開放、また、ロビー利用者の多い場合は机・椅子の数を増やしたり和室が空いていれば和室をロビーとして開放したりしている。</p>
<p>情報の提供</p>	<p>【現状】2カ月に1回コミセンだよりを発行、市報、ポスター(地域に15か所)、ホームページへ協議会の事業案内や地域行事等を情報発信している。</p> <p>【工夫している点】事業の内容により、千川小学校でのチラシ配布、千川小学校PTA便りへの掲載、千川小学校保護者が登録している「マチコミ」のメール配信、青少協ホームページへの掲載、地域団体へのポスター・チラシの設置など、地域と連携を密にとり情報を発信している。</p> <p>【特筆すべき成果】マチコミ利用で保護者に直接情報が届き、今まで利用したことのない層の方が事業に参加するなど、コミセン運営に興味を持ち運営委員の加入につながった。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

<p>利用者・利用団体と コミセンとのつながり づくり</p>	<p>【現状】新春のつどいやはちコミまつりでは、利用団体間の交流の機会になっている。また、利用者懇談会を開催し、コミュニティセンター利用にあたっての利用者ニーズの収集や利用者間の交流の促進を図っている。</p> <p>【工夫している点】新春のつどいやはちコミまつりでも、コミセンを利用している団体（21 団体）の活動内容を展示する機会を設けており、相互の活動について理解を深めるよい機会になっている。活動展示などを通して利用団体間の相互理解を高めている。その上で、利用団体間が連携して新たな事業ができるか、各利用団体のニーズを拾いながら、共催事業につなげるような工夫を取り入れている。</p>
<p>地域とコミセンの つながりづくり</p>	<p>【現状】限られた運営委員の中で、新規事業を行うとしても一人ひとりの負担が非常に大きくなっている。</p> <p>【工夫している点】はちコミまつり等を実施するにあたり、千川小学校の PTA や子ども会、青少協等と共催としている。できるだけ地域の団体と共催をしていくことで、様々な事業が実施できている。</p> <p>地域団体への会議の出席だけでなく、特に千川地域福祉の会・千川地域防災会・青少協千川地区・千川小 P T A や、千川おやじーズとは積極的に交流を持ち、相互協力できる体制がとれるよう工夫している。また、<u>都立武蔵野北高校</u>に関しては、<u>学校運営協議会</u>や<u>防災委員会</u>に委員として参加して関係を構築している。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員の 人材充実</p>	<p>【現状】仕事や子育てをしながら協議会運営に関われる体制を整えている。</p> <p>【工夫している点】特定の時間帯であれば協力できるという意見を尊重し、調整を行った。</p> <p>【特筆すべき成果】新しく運営委員が加入し、そのつながりにより、また運営委員が加入するといった良い流れができた。</p>
<p>持続可能な事業の 実施</p>	<p>【現状】「歩こう会」「お出かけしよう」といったコミセン外での事業を企画し、特に親子、高齢者が気軽に地域や地域外に出向ける機会を創出している。</p> <p>【工夫している点】「歩こう会」は 20 年近く続いている事業であり、もともとは山登りなど自然をテーマにした企画が多かったが、最近では参加者のニーズを踏まえて、話題性が高く、人気のある施設もテーマに取り入れている。</p>
<p>活発な協議会運営</p>	<p>【現状】多世代の運営委員が活動しているため、様々な考え方があがるが、運営委員同士で話しあう機会を積極的に設け、ニーズの変化に対応した事業企画、施設運営を行っている。</p>

④ 適正な運営

<p>会則や利用の決ま りに沿った公平な運 営</p>	<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 会則等を改正する場合、検討委員会を設置し原案を作成する。その後、運営委員会で協議を重ね、住民総会での承認を得て改正している。総会後は総会報告書を作成し、コミセン窓口で配架するほか、改正後の会則や決算報告等総会報告書の一部を抜粋し、コミセン便りに掲載して地域に配布している。 ▶ 千川小 PTA と連携し、「マチコミ」というメーリングリストを活用し、小学生やその保護者にコミセン利用時のルール等をお知らせしている。 ▶ 決まりにない事例については、日誌を活用し協議会内で共有している。月1回の窓口会議で相談し、必要があれば運営委員会で協議する。窓口担当者が判断できない内容は保留とし、役員会で協議し利用者へ連絡する。
<p>個人情報の保護</p>	<p>個人情報の適切な取り扱いを行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 施設使用申請書など個人情報の含まれる書類は、1 か月毎やナンバー順に整理し、鍵のかかるキャビネットで1年間保管。取り扱いについては、窓口会議で確認徹底している。
<p>事業計画に沿った 運営</p>	<p>事業計画に沿った運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ すべての事業企画は、担当者が企画書を作成し運営委員会で内容を協議、承認を経て実施となる。 ▶ 実施後は担当者が報告書を作成し、直近の運営委員会で報告。事業ごとに良かった点・反省点・改善点等意見を交わし、次回実施の事業に活かしている。
<p>経費削減と予算の 適正な執行</p>	<p>経費削減と予算の適正な執行に向けて、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 役員会で会計が進捗状況を報告し予算を管理している。日常的な消耗品以外の購入をするときは役員で話し合い、運営委員会で協議後購入している。 ▶ 支え合いステーション開設を想定した物品の購入を進めている。 ▶ 緊急性があるもので近々に運営委員会が行われない場合は、役員会で協議し購入後運営委員会で報告している。

⑤ 施設・設備の管理

<p>異常時の市への連絡・報告</p>	<p>異常時に市への連絡・報告が迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 原則は、窓口担当者から委員長（連絡がつかない場合は他役員）に報告後、委員長もしくは窓口担当者より市民活動推進課へ報告する。 ▶ 緊急性の高いものについては、110番・119番・避難等を優先し、その後委員長へ連絡する。 ▶ 窓口担当者向けに、連絡の手順を示したマニュアルを作成し、ファイリングしている。また、事務室内にコミセンの住所や電話番号などを掲示し、咄嗟の時に対応できるようにしている。
<p>防災・防犯</p>	<p>防災・防犯について、緊急時において迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 年1回の協議会主催の防災訓練を実施している。想定する内容により、利用者へ協力を要請し避難等の訓練を行う。（例：AEDを使った訓練であれば運営委員を中心にしたメンバー構成） ▶ 千川地域社協・千川地域防災会と共催で、9月に「千川地域福祉まつり」実施、支え合いステーション物資受取訓練やその他の訓練に参加・協力。 ▶ 協定を結んでいる福祉施設「親の家」の防災訓練に参加し（協議会の防災訓練にも参加してもらう）入居者の避難訓練や消火訓練に参加している。 ▶ 防犯については、八幡町コミセン防犯パトロール隊が月1回午後7時から防犯パトロールを実施している。 ▶ 運営委員・協力員研修で、防災関係の施設を見学し、防災に対する意識を高めている。
<p>防火の管理</p>	<p>防火の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 日々の管理は、窓口担当者が部屋利用終了時や巡回時に点検する。 ▶ 夜当番が自主検査表に基づき項目ごとに点検をする。利用後は利用者による点検をお願いしているが、窓口担当者も利用毎に確認している。 ▶ 防火管理者が避難訓練のプランを立て各所へ連絡。防災訓練時に消火訓練に参加。 ▶ 日々の問題点等は日誌で共有するほか、窓口会議・運営委員会で協議する。
<p>備品の管理</p>	<p>備品の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 書記担当者が支出書をもとに備品台帳を作成し、年1回更新している。 ▶ 独自に備品シール（購入年月日、備品番号などを記入）を作成、貼付している。 ▶ 日々の管理は窓口担当者が点検し、簡単なもの（ねじが外れた等）は修理する。

30. 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※現在、調整中

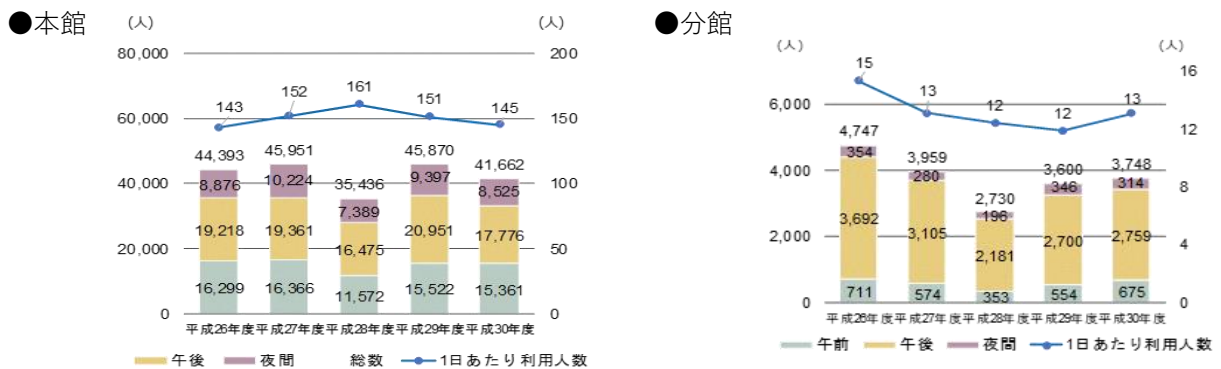
関前コミュニティセンター

31. 施設の概況

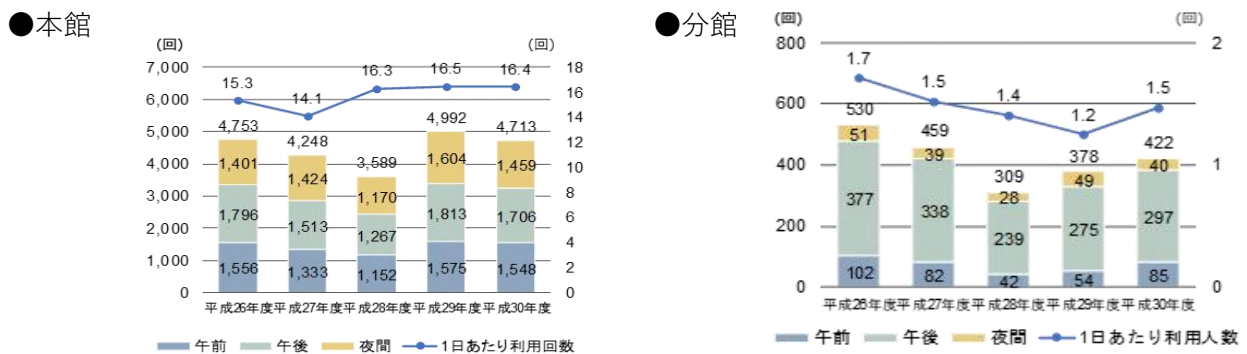
(1) 利用状況

- 平成 30 年度の利用者数（総数）は本館 41,662 人、分館 3,748 人であり、1 日あたりの利用人数は本館 145 人、分館 13 人（開館日数:287 日）であった。なお平成 28 年度には 2 か月間休館している。
- 利用回数（総数）は平成 30 年度で本館 4,713 回、分館 422 回で、1 日あたり利用回数は本館 16.4 回、分館 1.5 回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではロビー、レク室、音楽室及び学習室の利用割合が他と比べて高かった。
- 特に利用が多い団体の活動分野としては、本館が「福祉（高齢者向け）」、分館が「文化・芸術」「福祉（高齢者向け）」であった。

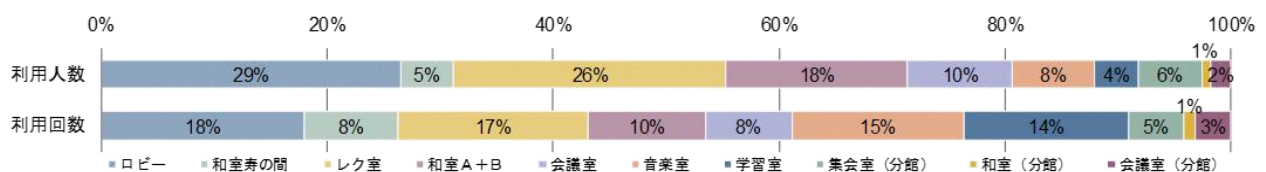
【年度別施設利用者数の推移】



【年度別施設利用回数の推移】



【施設分野別の利用割合（平成 30 年度）】



【利用団体の活動部分野】 (◎：特に利用実績が多い ○：利用実績がある)			
【本館】			
1. スポーツ (ヨガを含む)	○	6. 福祉 (高齢者向け)	◎
2. 文化・芸術	○	7. 福祉 (障がい者向け)	
3. 緑・環境		8. 防犯・交通安全	○
4. 教育・青少年育成	○	9. 防災	○
5. 子育て	○	10. まちづくり	
その他：健康麻雀、囲碁、老壮			
【分館】			
1. スポーツ (ヨガを含む)	○	6. 福祉 (高齢者向け)	◎
2. 文化・芸術	◎	7. 福祉 (障がい者向け)	
3. 緑・環境		8. 防犯・交通安全	
4. 教育・青少年育成	○	9. 防災	
5. 子育て		10. まちづくり	
その他：			

(2)主な事業

①事業名	コミセンまつり
②事業概要	関前福祉の会と共催で開催している。 ・趣味の作品展示・バザー・おもちゃのかえっこ・福祉施設のPR ・コミセン饅頭は毎年行列となり大好評 ・カレー、団子等の販売 ・囲碁大会・健康体操他
③体制	運営委員：21人以上 協力員：21人以上
④実績	実施回数：一回 参加人数：2,400人 事業費：280千円
⑤施設	全館分館共すべて

①事業名	七夕づくり
②事業概要	関前福祉の会が共催 親子連れや小学生たちが玄関とロビー内の竹に短冊や七夕飾りを飾り付け
③体制	運営委員：6～10人 協力員：1～5人
④実績	実施回数：年1回 参加人数：93人 事業費：8千円
⑤施設	ロビー・レク室

①事業名	関前ミュージックフェスティバル
②事業概要	音楽室等の利用者を中心に、活動の発表の場として企画。毎年12～3の団体・個人が参加。 ピアノ、ギター、管弦楽器、マンドリン、合唱など分野は様々。
③体制	運営委員：6～10人 協力員：1～5人
④実績	実施回数：年1回 参加人数：95人 事業費：25千円
⑤施設	当初はロビーにて開催、2019年度からレク室

①事業名	音楽とおしゃべりのティータイム
②事業概要	毎回のテーマに沿ったレコード演奏とトーク。ハーブティーと手作りお菓子あり 例「心地よい眠りをあなたに」（各国の子守唄を聴く）、「雨の日の家での楽しみ方」、「あなたのストレス解消法」、「春に向かって新しいスタートを」、「懐かしの昭和洋楽編」
③体制	運営委員：1～5人 協力員：0人
④実績	実施回数：年3回 参加人数：20～30人/回 事業費：27千円（3回分）
⑤施設	ロビー

①事業名	手打ちうどん作り
②事業概要	親子での参加多く、うどん粉からうどんを作り、手作りのつゆで皆で食す 講師は長年、地域のうどん作りの伝統を引き継いでいる地元の方が指導
③体制	運営委員：6～10人 協力員：1～5人
④実績	実施回数：年1回 参加人数：33人 事業費：10千円
⑤施設	大広間

①事業名	パソコン教室
②事業概要	・毎週水曜日午前中実施、費用300円/回、個別指導 ・初心者にはワード、エクセル、インターネット、メールを指導 ・すでにパソコンを使用中の人には個別相談や希望内容の指導 ・パソコンは持ち込み可能、コミセンでもノートパソコンの用意あり手ぶらで気楽に受講可
③体制	運営委員：1～5人 協力員：0人
④実績	実施回数：週1回 参加人数：人 事業費：50千円

(3)コミュニティセンター活動体制

○平成30年度時点の運営委員数は48名であり、協力員数は30名である。

32. 評価結果まとめ

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】新たに運営委員を中心に「ガーデニングチーム」を立ち上げ、花壇の整備や草花の植え付けを行い、利用者の憩いの場となるようにしている。</p> <p>【工夫している点】剪定箇所や水やり等、経験豊富な参加者によるワンポイントアドバイスをを行っている。</p>
<p>新しい利用者・利用団体の増加</p>	<p>【現状】日頃から音楽室を利用し楽器の練習等をしている人たちの発表の場として関前ミュージックフェスティバルを開催している。</p> <p>【工夫している点】以前コミセンまつりの中で「カラオケ大会」を実施していたが、音楽室利用者のコーラス・ウクレレ・ピアノ・ギター等幅広いジャンルと幅広い年齢層の方が、参加できる催し物にした。</p> <p>【特筆すべき成果】地域の音楽を楽しまれる方たちにも毎年声かけをすることで参加者の輪が少しずつ広がり、多くの利用者と地域の皆さんとが交流する一日になってきている。</p>
<p>施設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】分館では、福祉の会主催の麻雀教室・囲碁教室、市の不老体操などが定期的に開催されている。</p> <p>【工夫している点】調理室がないので、できるだけ火を使用しないでできるメニューを設定し、巻き寿司と簡単おつまみなど、湯沸室等と電子レンジを利用して「男子の料理教室」を実施している。</p>
<p>情報の提供</p>	<p>【現状】ホームページを見やすくするためリニューアルを行った。</p> <p>【工夫している点】サイト全体のメニュー一覧を常に画面上位に表示させる、トピックスごとにエリア分けをするなど、必要な情報の取得が容易になるような構造とした。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利 用者・利用団体と コミセンとのつながり づくり	【現状】 「コミセンまつり」では、コミセン利用者が一堂に会し、交流する機会になっている。縁日や展示についても、運営委員・協力員や地域の多くの団体と協力しながら行っている。
地 域とコミセンの つながりづくり	【現状】 地域のお祭りである「関前八幡まつり」では、協議会に加えて、関前南小学校 PTA や青少協、福祉の会など計6団体が連携して花火大会を開催している。実行委員会形式で実施しており、これらの取り組みを通して、団体間の顔の見える関係性の構築につながっている。

③ 持続可能な協議会の運営

運 営委員・協力員の 人材充実	【現状】 若い世代（50代以下）の運営委員の募集に力を入れている。 【工夫している点】 他のコミセンと比較して、運営委員になる要件を緩和している。すべての会議に出席することを運営委員の要件にしてしまうと若い世代の参加が難しいので、「運営委員会やコミセン行事に年2回以上出席すること」という要件にとどめている。
持 続可能な事業の 実施	【現状】 コミセンまつりで小学生による吹奏楽演奏を行ったことで、PTAの方たちの協力も得られている。
活 発な協議会運営	【現状】 窓口担当者会議を定期的に行い、窓口対応力の向上と情報共有をおこなっている。

④ 適正な運営

<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営</p>	<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 窓口会議や役員会で検討し、運営委員会で決めている。
<p>個人情報の保護</p>	<p>個人情報の適切な取り扱いを行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 書庫に1年保存し、その後シュレッダー処理している。
<p>事業計画に沿った運営</p>	<p>事業計画に沿った運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 事業終了後、担当者が事業報告書を作成し、運営委員会で報告している。
<p>経費削減と予算の適正な執行</p>	<p>経費削減と予算の適正な執行に向けて、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 新規事業を行う際は、運営委員会で諮って予算化している。

⑤ 施設・設備の管理

<p>異常時の市への連絡・報告</p>	<p>異常時に市への連絡・報告が迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 速やかに市へ連絡後、委員長へ連絡し、窓口用の連絡ノートに記入している。
<p>防災・防犯</p>	<p>防災・防犯について、緊急時において迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 年1回消防署に来てもらい、利用者も含めて防災訓練（AED や消火器の使い方など）を実施している。
<p>防火の管理</p>	<p>防火の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 防災訓練の参加を促し、その報告を運営委員会で周知している。 ▶ 夜の窓口当番が、館内チェック表(施錠・ガス等)に基づき毎日点検を行っている。
<p>備品の管理</p>	<p>備品の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 備品の新規購入や廃棄の際には、適宜備品台帳に記載をしている。 ▶ 備品シールでの管理もできている。

33. 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

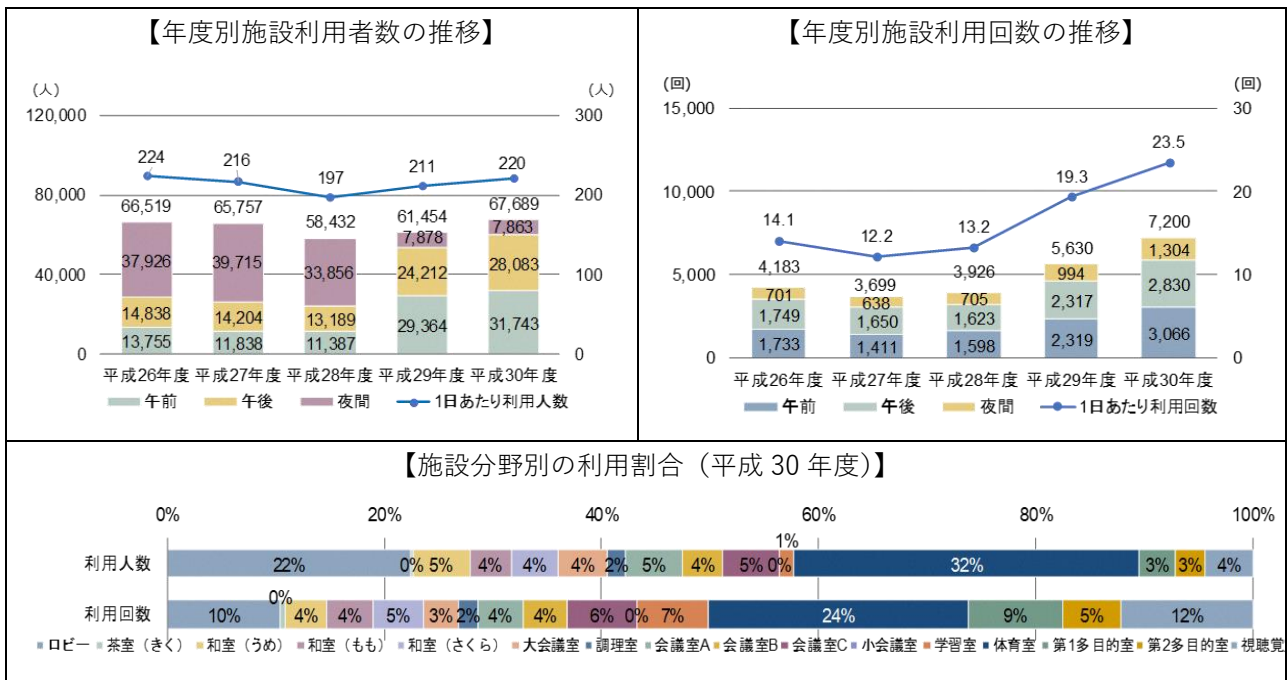
※現在、調整中

西部コミュニティセンター

34. 施設の概況

(1) 利用状況

- 平成30年度の利用者数（総数）は67,689人であり、1日あたりの利用人数は220人（開館日数:307日）であった。過年度と比較すると、過去3年間の利用者数（総数）は増加傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成30年度で7,200回、1日あたり利用回数は23.5回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数では体育室、視聴覚室、ロビーの利用割合が他と比べて高かった。
- 特に利用が多い団体の活動分野としては、「スポーツ」「文化・芸術」であった。



【利用団体の活動部分野】		
(◎：特に利用実績が多い ○：利用実績がある)		
1. スポーツ（ヨガを含む）	◎	6. 福祉（高齢者向け）
2. 文化・芸術	◎	7. 福祉（障がい者向け）
3. 緑・環境		8. 防犯・交通安全
4. 教育・青少年育成		9. 防災
5. 子育て	○	10. まちづくり
その他：マンションの管理組合など、保育園・学童クラブ父母会など		

(2) 主な事業

①事業名	コミセンまつり
②事業概要	模擬店（焼きそば、綿あめ、肉まん、焼き団子など）や人形劇、スタンプラリー、バルーンアート、など子ども向けイベント、地域の学校や団体の発表の場など全館を用いたイベントなど。今年は初めて雨の中の開催になった。模擬店テントの雨漏りに悩まされながらも商品は予定時刻より早く売り切れてしまった。
③体制	運営委員：21人以上 協力員：21人以上
④実績	実施回数：9回 参加人数：893人 事業費：3,000千円
⑤施設	全館と隣接する市道

①事業名	コミセン文化祭
②事業概要	利用団体の方の作品・舞台の発表の場、児童館、小中学校からの展示もある。模擬店はほぼ無い。
③体制	運営委員：21人以上 協力員 21人以上
④実績	実施回数：32回 参加人数：1,060人 事業費：2,000千円
⑤施設	全館

①事業名	ちびっこ運動会
②事業概要	コラボを運営している団体を中心となって未就学児対象の親子で行う運動会。地域の大人も手伝いに入り、小学生もボランティアで手伝ってくれるほか、ダンス披露を行う。近隣大学生も手伝いと吹奏楽の演奏をしてくれる。ムサン DAN くんも体操とかけっこで参加する。
③体制	運営委員：6～10人 協力員：6～10人
④実績	実施回数：5回 参加人数：176人 事業費：10千円
⑤施設	体育室・地下全体・玄関外で綿あめ

①事業名	その他
②事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・カラオケ大会 ・卓球のつどい ・コミュニティ食堂：給食食育推進財団主催のもで行う。夏休みの期間中に2回開催する。まだスタートしたばかりだが、応募は多い。小さな子を連れた家族から高齢者までたくさんの方が食事をしながら交流を楽しんでいる。 ・コミセンデー【ベーゴマ大会】（年齢制限なしのエントリーで行った。参加者は約20名のイベントだったが、子どもだけでなく大人も一体となって大いに盛り上がった。）
③体制	運営委員：-人 協力員：-人
④実績	実施回数：-回 参加人数：-人 事業費：-円
⑤施設	-

(3) コミュニティセンター活動体制

○ 平成30年度時点の運営委員数は30名であり、協力員数は49名である。

35. 評価結果まとめ

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】体育室をより利用しやすくするため、予約可能人数の変更を検討している。</p> <p>【工夫している点】予約可能人数の変更による有効性を検証するため、試験運用を行った（予約できる最少人数を4名から2名に変更したが、特段の効果・反響はなかったため元の4人に戻している）。</p>
<p>新しい利用者・利用団体の増加</p>	<p>【現状】今後の課題として、地域の子どもの利用増加が挙げられる。桜野小学校は900人を超える大規模校であるため、そうした地域の子どもたちが利用しやすい環境づくりが必要である点が課題として認識されている。</p>
<p>施設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】体育室利用時の熱中症対策として、隣接する部屋を涼しくし、休憩場所として開放している。</p>
<p>情報の提供</p>	<p>【現状】協議会公式のアカウントを作成し、SNSと広報紙等、多様な方法で情報を発信している。</p> <p>【工夫している点】SNSを用いることで、即時性を持って地域情報を発信できている。</p> <p>【特筆すべき成果】SNSを通して、武蔵野市内で市民活動を行っている団体・個人とつながりが生まれている。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

<p>利用者・利用団体と コミセンとのつながりづくり</p>	<p>【現状】コミセンまつり・文化祭は利用団体が一同に会する機会であり、利用団体の交流が生まれ、顔の見える関係性の構築につながっている。</p> <p>【工夫している点】近年では文化祭に出展・出演するサークルの数が減少していたが、サークルの展示・発表の場だけではなく、はんこ作りや絵葉書作りといった参加・体験型イベントを企画するなどの工夫を行った。これによって、地域住民の参加も増えている。</p>
<p>地域とコミセンの つながりづくり</p>	<p>【現状】地域防災については、桜野地域防災ネットワークがあり、コミセンもそのメンバーになっている。桜野小学校の避難所運営組織とも連携体制を構築している。</p> <p>地域社協や青少協の運営委員にコミセンの委員が加わり、年数回の会議を通して情報交換を行っているほか、コミセンまつりの手伝い・出店等への協力を得ている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員の 人材充実</p>	<p>【現状】運営委員を対象として研修会を開催した。</p> <p>【工夫している点】講師を招き「地域活動を活性化するための話し合いのコツを学ぶ」をテーマとした学びの場を設けた。</p>
<p>持続可能な事業の 実施</p>	<p>【現状】「ちびっこ運動会」という未就学児を対象とした運動会を開催している。</p> <p>【工夫している点】市のボランティア登録制度である「武蔵野市青少年リーダー」を活用し、中高生のボランティア協力を得ている。また、近隣の小学生や大学生等にも協力を呼びかけ、多くの方の協力を得ながら事業を実施している。</p>
<p>活発な協議会運営</p>	<p>【現状】若い世代の運営委員が増加している。</p> <p>【工夫している点】若い世代の運営委員が増えたことで、働いている人や専業主婦などライフスタイルがそれぞれ大きく異なるメンバー構成になっている。そこで、協議会の定例会は、月ごとに午前の時間（子育て中の方も参加可能な時間）と夜間の時間（働いている人も参加可能な時間）を交互に開催するなどの工夫を行っている。</p>

④ 適正な運営

<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営</p>	<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 「会則」と「運営要項」、「利用について」の内容は役員会で話したのち運営委員会で提案し、協議している。令和元年度は「利用について」は数回改正をし、「会則」は住民総会での承認を得て1回改正した。 ➤ 決まりにないことは、「利用について」は役員会で検討し、「会則」・「運営要項」についてはどのように扱うか規定がないため、その都度運営委員会などで協議している。
<p>個人情報の保護</p>	<p>個人情報の適切な取り扱いを行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 保存期間を決めてキャビネットで保管し、期間後はシュレッダーにかけて廃棄している。保存期間は誰でも確認できるように、キャビネットの扉の裏に貼ってある。
<p>事業計画に沿った運営</p>	<p>事業計画に沿った運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 翌年度に向け、年末頃に新規事業の提案や既存事業の精査を行っている。 ➤ 個々の事業については担当者同士で話し合い、その内容を運営委員会で検討する。実施後は運営委員会にて報告する。また、住民総会でも事業報告をしている。
<p>経費削減と予算の適正な執行</p>	<p>経費削減と予算の適正な執行に向けて、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 金額に応じて、会計担当権限で執行できるもの（1万円まで）、役員会の承認を必要とするもの（1万円～3万円）、運営委員会の承認を必要とするもの（3万円以上）に分けて適切に執行している。

⑤ 施設・設備の管理

<p>異常時の市への連絡・報告</p>	<p>異常時に市への連絡・報告が迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 随時窓口担当者または会長から市に報告している。
<p>防災・防犯</p>	<p>防災・防犯について、緊急時において迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 専門部会として防災部会をおいている。 ➤ 年2回の防災訓練(館内で訓練1回・バス研修1回)を行っている。館内の防災訓練に消防団が立ち会う時もあり、施設を知ってもらう

	<p>意味でも有意義である。窓口担当者の全員は参加できていないため、参加率の向上が課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 普段、使っていない部屋は常に施錠している。 ➤ 地域支え合いステーションとして、情報発信・物資供給の拠点としてのあり方も検討が必要だと感じている。
防 火の管理	<p>防火の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 防災訓練時の設備研修で設備の説明と消火器の点検を行っている。
備 品の管理	<p>備品の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 備品台帳は令和元年度より作成・整理を始めている。

36. 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

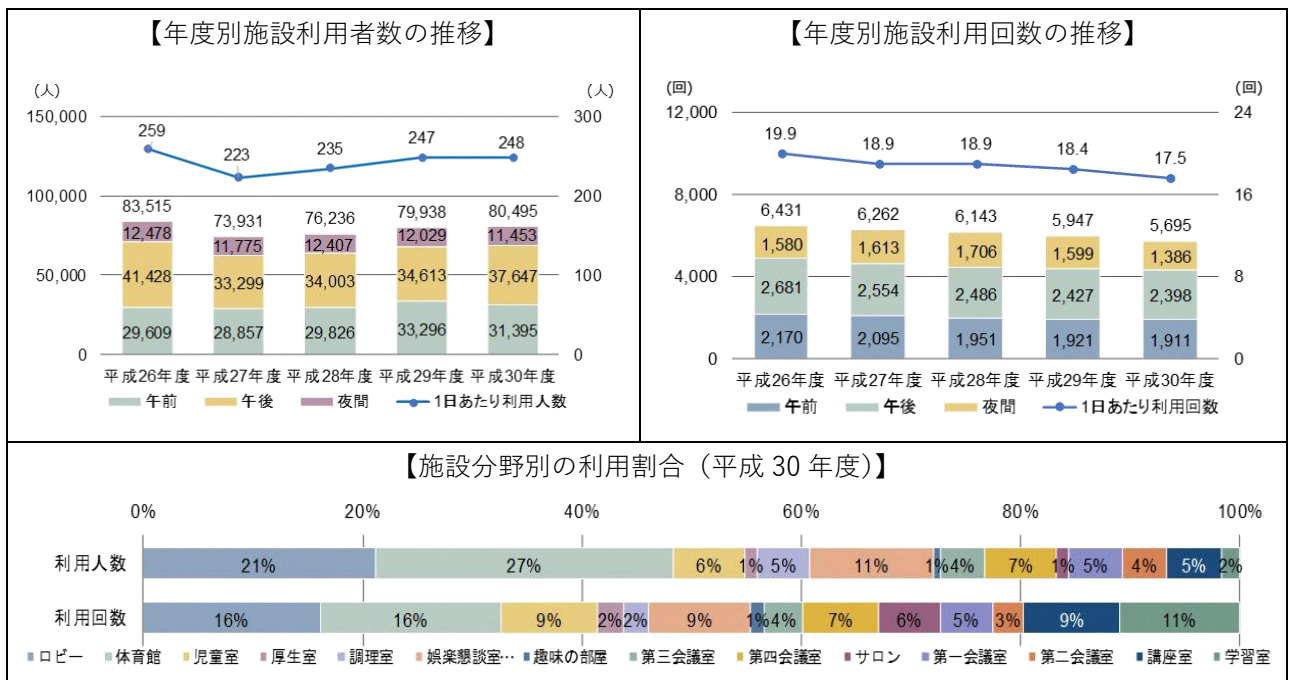
※現在、調整中

境南コミュニティセンター

37. 施設の概況

(1) 利用状況

- 平成 30 年度の利用者数（総数）は 80,495 人であり、1 日あたりの利用人数は 248 人（開館日数:325 日）であった。過年度と比較すると、過去 3 年間の利用者数（総数）は若干ではあるが、増加傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成 30 年度で 5,695 回、1 日あたり利用回数は 17.5 回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではロビー、体育館、学習室の利用割合が他と比べて高かった。
- 特に利用が多い団体の活動分野としては、「スポーツ」「その他（老人会、マンション管理組合、保育園、幼稚園、小学校の父母会）」であった。



【利用団体の活動部分野】 (◎：特に利用実績が多い ○：利用実績がある)			
1. スポーツ（ヨガを含む）	◎	6. 福祉（高齢者向け）	○
2. 文化・芸術	○	7. 福祉（障がい者向け）	○
3. 緑・環境	○	8. 防犯・交通安全	○
4. 教育・青少年育成	○	9. 防災	○
5. 子育て	○	10. まちづくり	○
その他：◎老人会・マンション管理組合、◎保育園・幼稚園・小学校の父母会、○カラオケ同好会			

(2) 主な事業

①事業名	文化祭
②事業概要	境南コミセンで活動しているサークル等の発表の場を主とし、地元の保育園、幼稚園、小学校、中学校、子どもクラブの皆さんの発表の場としても参加をしている。また最近では地元スポーツクラブの子供達によるダンスの紹介、フラダンスの発表、殺陣の演技なども実演してもらい大変好評を得ている。各団体等からは模擬店の出店も多数あり、地域の皆さまは楽しみにしており、毎年延べ 3,000 人方が集まる最大のイベントである。
③体制	運営委員：21 人以上 協力員：21 人以上
④実績	実施回数：年 1 回 参加人数：3,000 人 事業費：400 千円
⑤施設	体育室を含むすべての部屋とピロティ

①事業名	モーニングハイク
②事業概要	毎年 7 月最後の土曜日に開催している。境南コミセンを出発しコミセンに戻るまで約 10 キロの距離をウォーク。10 人位のグループ 8~10 組に分け、それぞれのグループには班長・副班長を経験者をお願いし、安全を確保している。途中にはトイレ休憩、水分補給のポイントを設定し、ゴールのコミセンでは恒例のカレーライスを提供する。2019 年には 34 回目を迎える。
③体制	運営委員：21 人以上 協力員：21 人以上
④実績	実施回数：年 1 回 参加人数：130 人 事業費：6.5 千円
⑤施設	体育室、娯楽室、調理室、第 3、4 会議室

(3) コミュニティセンター活動体制

○ 平成 30 年度時点の運営委員数は 47 名であり、協力員数は 131 名である。

38. 評価結果まとめ

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】体育室は多くの利用があり、卓球やバドミントン等、様々な活動が行われている。</p> <p>【工夫している点】体育室は混雑時には2時間を目安にした利用をお願いしている。<u>熱中症防止のため、体育館内の温度計・湿度計で、適宜温度と湿度を確認し、暑さ指数(WBGT値)が30度以上になると利用を控えてもらっている。</u></p>
<p>新しい利用者・利用団体の増加</p>	<p>【現状】「モーニングハイク」事業では、より多くの人に関心を持ってもらえるような場所を検討し、選出している。ただ行くだけでなく、その場所で子どもが遊べるかといった点にも留意し、新たな人の参加を企図している。</p> <p>【工夫している点】体育室があることから、「スポーツ委員会」というものを設け、スポーツ関連団体から1名ずつ出してもらっている。各団体が企画・運営側に回り、一般利用者を対象としたスポーツデーを開催した。</p>
<p>施設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】体育室は、夏場は気温が上昇するため、特に高齢者などは熱中症に気を付ける必要があり、15分ごとに気温を測定し記録をするとともに適宜注意喚起を行っている。</p>
<p>情報の提供</p>	<p>【現状】ホームページに施設予約状況を公開している。</p> <p>【工夫している点】ホームページに地域の風景等を撮影した写真を多く掲載し、効果的に地域の紹介をしている。また、周年記念誌をホームページで公開し、協議会活動や歴史を広く情報提供している。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

<p>利用者・利用団体と コミセンとのつながり づくり</p>	<p>【現状】「モーニングハイク」事業は、地元について新たな発見があると好評で、小さな班で出かけるため、全く知らない人同士の交流が生まれる点が特徴である。また、「ママのための健康講座と親子 de 体操（6 か月から1 歳未満の子どもを対象）」や「くまのこひろば（0 から3 歳未満の子どもを対象、絵本の読み聞かせ等）」など、乳幼児向けの事業を多く実施している。</p> <p>【工夫している点】子どもの成長に応じた事業を実施していることで、継続的に関わりを持ってている。</p>
<p>地域とコミセンの つながりづくり</p>	<p>【現状】地域の各種団体から、コミセンの運営委員を選出しており、運営委員会そのものが地域団体のつながりを生む場所になっている。また、コミセン独自で自主防災担当を決め、境南地域防災会の一員として3～4 人が会議・訓練に参加している。境南地域社協と武蔵野赤十字在宅介護・地域包括支援センターと連携して、認知症のささえあい、一人住まいの方々の見守りにも参加している。</p> <p>【工夫している点】協議会の OB・OG が立ち上げた境南盆踊り実行委員会に協議会が入り、境南盆踊り大会を開催している。実行委員会の呼びかけによって、企業や老人会等、多くの地域団体が関わっている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員の 人材充実</p>	<p>【現状】運営委員は、地域の各種団体から選出してもらう形で確保している。ただし、担い手の高齢化は課題ではあるが、スポット的に PTA や支部社協の協力が得られている。</p>
<p>持続可能な事業の 実施</p>	<p>【現状】「モーニングハイク」事業は、毎年新役員が担当となっており、事業の次世代への引継ぎや新役員の地域へのお披露目が企図されている。また、運営委員は、「広報部」「青少年部」「成人活動部」「地域対策部」といった5 つの部のどれかに所属することになっており、それぞれに役割・裁量を与えている。どの部に所属するかは、希望も踏まえるが、最終的な調整は役員が行っている。</p> <p>【工夫している点】5 つの部には部長がおり、彼らの主体的な行動が増えている。事業の企画などを各部に任せることで、毎月の運営委員会での提案・報告が活発に行われている。</p>
<p>活発な協議会運営</p>	<p>【現状】協議会会則を見直し、実現はしなかったが改定案を住民総会に提出する等、より良い協議会運営ができるよう工夫している。</p>

④ 適正な運営

<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営</p>	<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ コミュニティの促進を中心に考え、重要事項は運営委員会、住民総会に諮る。 ▶ 役員の任期などについて、昨年度から会則改定の検討が続いている。
<p>個人情報の保護</p>	<p>個人情報の適切な取り扱いを行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ (保管方法) 事務室内のカギのかかるロッカーに保管し、使用後はシュレッダー処分。PC はパスワード設定をしている。申請書は 1 年保管している。
<p>事業計画に沿った運営</p>	<p>事業計画に沿った運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ コミセン全体の事業（文化祭など）は実行委員会を立ち上げ、準備をしている。 ▶ 実施後、良かった点、反省点を部会や担当者間で話し合い、運営委員会で口頭や資料配布により報告している。 ▶ 成人活動部は老人会が中心に、子ども部会は PTA が中心に、など役割分担をしている。担当を希望する部会に任意で入ることもできる。
<p>経費削減と予算の適正な執行</p>	<p>経費削減と予算の適正な執行に向けて、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 毎月運営委員会で執行状況を報告している。大きな支出や例外的な支出については事前に話し合いをしている。

⑤ 施設・設備の管理

<p>異常時の市への連絡・報告</p>	<p>異常時に市への連絡・報告が迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 特にルールは設けていないが、緊急連絡先の資料を共有し、事態に応じて、設備保守業者や協議会役員、市へ連絡している。連絡先は窓口担当者が分かるように共有できている。
<p>防災・防犯</p>	<p>防災・防犯について、緊急時において迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 近隣の防災公園で機器の点検を実施している。 ▶ 避難訓練は、予告をしたうえで、利用者を交えながら、小規模な訓練を実施している。 ▶ 防犯は戸締りをしっかり行っている。無線訓練は窓口当番が対応している。

防火 の管理	<p>防火の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 閉館時に窓口担当者がガスの元栓などの確認は行っている。巡回点検リストを作成して、チェックしている。 ➤ 毎月防火管理者が点検結果を確認している。
備品 の管理	<p>備品の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 備品購入ごとに備品台帳に登録しており、現在再点検をしている。 ➤ 事業実施の際に備品数の確認・点検を実施している。 ➤ 今後予定している大規模改修工事の後には、事務室内のレイアウトが変更される予定のため、窓口担当者が対応できるように書類や文具等の収納場所一覧表を作成している。

39. 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

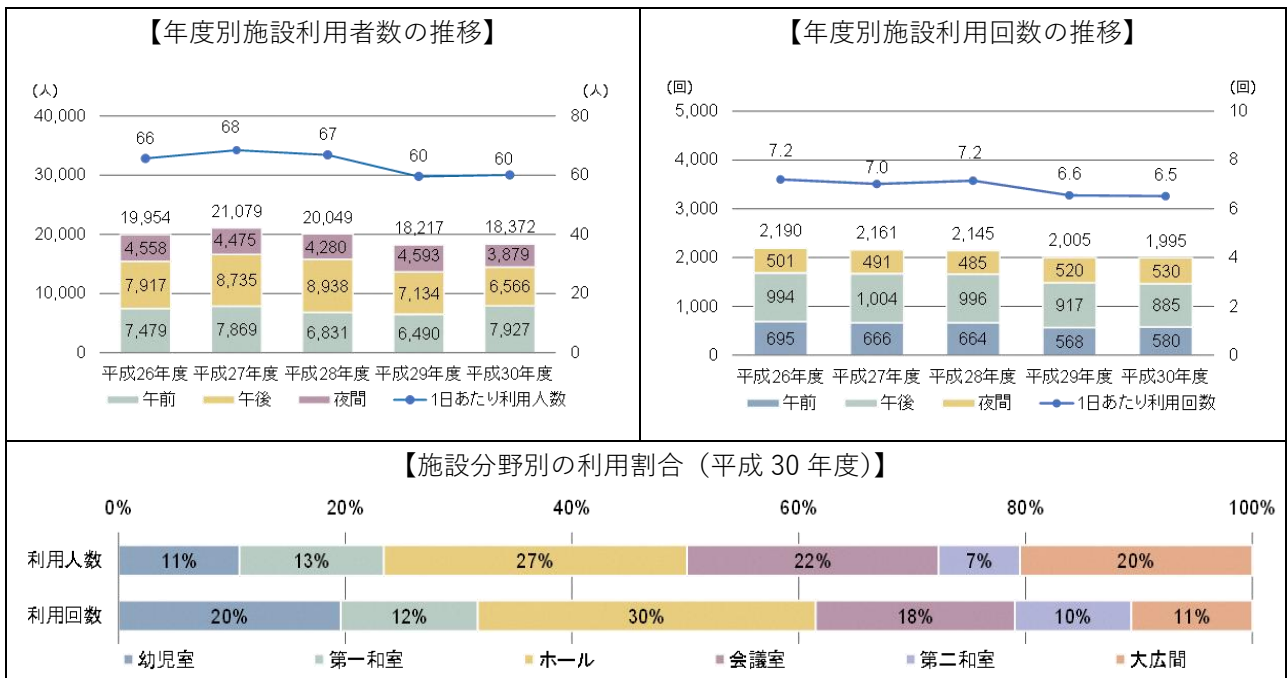
※現在、調整中

桜堤コミュニティセンター

40. 施設の概況

(1) 利用状況

- 平成 30 年度の利用者数（総数）は 18,372 人であり、1 日あたりの利用人数は 60 人（開館日数:306 日）であった。過年度と比較すると、過去 3 年間の利用者数（総数）は若干ではあるが、減少傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成 30 年度で 1,995 回、1 日あたり利用回数は 6.5 回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではホール、幼児室、会議室の利用割合が他と比べて高かった。
- 特に利用が多い団体の活動分野としては、「スポーツ」「文化・芸術」「福祉（高齢者向け）」であった。



【利用団体の活動部分野】			
（◎：特に利用実績が多い ○：利用実績がある）			
1. スポーツ（ヨガを含む）	◎	6. 福祉（高齢者向け）	◎
2. 文化・芸術	◎	7. 福祉（障がい者向け）	
3. 緑・環境	○	8. 防犯・交通安全	○
4. 教育・青少年育成	○	9. 防災	○
5. 子育て	○	10. まちづくり	○
その他：			

(2) 主な事業

①事業名	夏祭り
②事業概要	・模擬店(焼きそば・フランクフルト・綿あめ・かき氷・肉まん・団子・ヨーヨー・枝豆・お菓子のつかみ取り・飲み物・光るおもちゃ) ・盆踊り(事前の練習会の指導や当日の指導・太鼓等、地域住民の協力によって運営している。) ※地域の自治会・桜寿会・青少協・小学校PTA・クリーン武蔵野を推進する会・消防団・上向台郵便局・防災推進委員・防犯協会・保護司会・てんとう虫の会・桜堤ケアハウス・さくらえん等地域内の団体の協力体制で実施している。
③体制	運営委員: 21人以上 協力員: 21人以上
④実績	実施回数: 年1回 参加人数: 900~1,000人 事業費: 140千円
⑤施設	全館・上水北公園

①事業名	もちつき
②事業概要	前日より道具・材料などの準備を行い、当日は運営委員・協力員・地域の皆さんとみんなで作業の分担をして60キロのもちを搗く。子供が体験できるように小さな杵も用意している。つきたての餅は あんこ・黄粉・ごま・からみ大根でパックして一人3パックを販売する。公園にテーブルと椅子を用意して皆さんで召し上がっていただくこともできる。
③体制	運営委員: 21人以上 協力員 21人以上
④実績	実施回数: 年1回 参加人数: 300人 事業費: 30千円
⑤施設	全館・上水北公園

①事業名	天体観望会
②事業概要	“月・すばる・火星・天王星を見よう”というテーマで、三鷹の国立天文台より講師を二名お招きして、天文台・武蔵野スポーツ振興事業団の野外活動センターより天体望遠鏡を2台借用し、上水北公園に設置して星の観察を行う。館内では、星座の探し方などのお話をさせていただく。望遠鏡の待ち時間には、運営委員で作ったけんちん汁を振る舞う。
③体制	運営委員: 6~10人 協力員: 6~10人
④実績	実施回数: 年1回 参加人数: 100人 事業費: 40千円
⑤施設	全館・上水北公園

①事業名	子どもと大人の (輪投げ大会・ポッチャ大会)
②事業概要	地域の老人会(桜寿会)との共催事業で、地域の子供と大人と一緒にスポーツを楽しむ会である。夏休みに輪投げ大会・春休みにポッチャ大会を実施。子供と大人と一緒にチームを組んでゲームの成績を競う。同じチームの子どもと大人は応援し合い、お昼はみんなで軽食を頂きながら楽しいコミュニケーションの場となっている。参加賞や賞品、軽食費用などを桜寿会と折半している。
③体制	運営委員: 6~10人 協力員: 1~5人
④実績	実施回数: 年2回 参加人数: 50人 事業費: 30千円
⑤施設	全館

①事業名	よみきかせ
②事業概要	0才~3才児の親子が対象で、10:30~11:00に開催している。講師を2名依頼して、絵本の読み聞かせ、手遊び、歌いながらのベビーマッサージ、スキンシップなどを行う。 親子広場に参加した方たちへのお誘い等で参加者がふえつつあり、参加者同士がよみきかせの終了後も幼児室で一緒に過ごすことがある。
③体制	運営委員: 1~5人 協力員: 0人
④実績	実施回数: 年4回 参加人数: 70人 事業費: 20千円
⑤施設	幼児室・第一和室

(3) コミュニティセンター活動体制

- 平成30年度時点の運営委員数は32名であり、協力員数は34名である。

41. 評価結果まとめ

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利用者への配慮と適切な対応	【現状】卓球セットやオセロ、トランプ等の貸し出しを行い、気軽にコミセンに来て楽しめるようにしている。
新しい利用者・利用団体の増加	【現状】子どもから高齢者までが一緒のチームを作り、世代間交流が生まれている。子どもと大人の輪投げ大会・ポッチャ大会を実施している。
施設の利用方法の工夫	【現状】多くの方が一堂に集まれる部屋がない。 【工夫している点】隣接する上水北公園も活用することで、「夏まつり」や「星の観望会」など多くの方が集まる事業の実施ができています。
情報の提供	【現状】イベント情報やお知らせ等を掲載している会報を 3 カ月に 1 度発行している。

② 地域におけるネットワーク機能

<p>利用者・利用団体と コミセンとのつながり づくり</p>	<p>【現状】利用者懇談会を年1回開催し、利用団体同士の交流、また利用団体と地域のつながりの創出に取り組んでいる。</p> <p>【工夫している点】未就学児の親子を対象としている桜堤児童館との連携事業「親子広場（子育てについての情報交換等）」の参加者に、「よみきかせ」への参加も呼びかけるなど、継続的なつながりづくりが意識されている。「よみきかせ」の終了後も幼児室にて、参加者同士の交流が促進されている。</p>
<p>地域とコミセンの つながりづくり</p>	<p>【現状】子どもと大人の輪投げ大会、ボッチャ大会、利用者懇談会、お餅つき、夏祭りなど、地域団体と連携して事業を実施している。例えば子どもと大人の輪投げ大会は、地域の高齢者団体との共催で実施しており、地域のケアセンターからの参加もある。また、ケアセンターと共催で介護予防の講習会を実施している。小さなコミセンだからこそ、地域団体の力を借りなければ事業実施が難しい点が、結果としてつながりを生んでいる。</p> <p>【工夫している点】ボッチャ大会の練習場所として地域の学校の体育館を借りることがあるほか、協議会から桜野小学校の子ども館推進会議委員に人を出すなど、学校とのつながりづくりに取り組んでいる。また、地域団体とは、各団体の代表者と密に連絡を取っているほか、事業実施に向けては各団体に協力依頼をして準備会にも出席してもらい、団体同士のつながりをつくっている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員の 人材充実</p>	<p>【現状】運営委員の入れ替わりはあまり多くなく、高齢化も進んでいるため若い世代の参加を得ることが課題となっている。そのような状況の中でも、2019年度は3名の新しい運営委員が参加している。若い人や新しい運営委員の参加で新しい事業や意見が進められて変化が表れている。市境という立地条件のため、他市の利用者から運営委員として活動している方もいる。</p>
<p>持続可能な事業の 実施</p>	<p>【現状】「天体観望会」という事業は講師の都合により継続が困難になったが、利用者からの継続を望む声が多く寄せられていた。</p> <p>【工夫している点】「天体観望会」を継続するため、野外活動センターへ相談し、新たな講師の紹介を受けて、現在も事業を実施できている。</p>
<p>活発な協議会運営</p>	<p>【現状】協議会主催のサークルを3つもっている。</p> <p>【工夫している点】サークルは囲碁同好会（桜碁会）、カラオケ同好会、絵手紙（みどりの会）があり、定期的に活動している。</p>

④ 適正な運営

<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営</p>	<p>会則や利用の決まりに沿った公平な運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 会則や利用の決まりは、運営委員全員に配布し、月1回開催する運営委員会及び年2回開催する窓口担当者会議で適宜内容を確認している。 ▶ コミセンの目的に沿って適切に対応できるよう作成した「窓口業務マニュアル」に沿って、窓口担当者が適宜判断している。 ▶ 判断に困る事案については、会長や役員に相談して対応しているほか、必要に応じて役員会・運営委員会で協議のうえ対応している。
<p>個人情報の保護</p>	<p>個人情報の適切な取り扱いを行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用申請書は月毎にファイリングし、専用キャビネットにて1年間分保管後、来館者名簿は月毎にファイルし、専用キャビネットにて3か月保管後、シュレッダーで処分をしている。 ▶ 現在「来館者名簿」はリスト式で、記入済みの欄を目隠しするよう工夫しているが、管理を簡素化するため個票にすることを検討している。
<p>事業計画に沿った運営</p>	<p>事業計画に沿った運営を行うため、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 運営委員会で各事業の担当者を選任し、企画運営を行っている。 ▶ 「夏祭り」や「文化祭」等の大規模行事では「実行委員会」を組織し、企画運営を行っている。 ▶ 事業実施後は、直近の運営委員会で、担当者及び参加者からの評価・反省点を共有している。 ▶ 大規模行事実施後は、運営委員や協力員のほか、青少協・桜堤ケアハウス・郵便局など協力団体の関係者を対象として反省会及びアンケートを実施し、成果と反省を共有している。また、前年度のアンケート結果を踏まえて事業計画を立てている。 ▶ 事業によっては同じ運営委員が長期にわたり担当することがある。
<p>経費削減と予算の適正な執行</p>	<p>経費削減と予算の適正な執行に向けて、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 担当者が前年度類似事業を参考に事業内容及び予算を提案する。運営委員会で検討し、会計が主体となり配分を決定している。 ▶ 担当者は配分された予算は、役員や担当者間など複数人で確認のうえ適切に執行している。 ▶ 消耗品購入時や備品購入時は、役員及び使用者が、品質・価格・メーカーを比較したうえで選定している。

⑤ 施設・設備の管理

<p>異常時の市への連絡・報告</p>	<p>異常時に市への連絡・報告が迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 市への連絡先や業者の連絡先が窓口担当者にわかるよう「委託契約一覧表」を管理室内に掲示している。 ▶ 異常事態発生時は、市役所「市民活動推進課」へ連絡、対応指示を受けている。 ▶ 休日や緊急時は直接業者に連絡、市役所には遅滞なく報告している。
<p>防災・防犯</p>	<p>防災・防犯について、緊急時において迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 利用者に避難経路等を理解し避難してもらえよう、年1回開催する「利用者懇談会」の後に防災訓練を設定し、利用者の訓練参加を促進している。訓練では避難経路の確認のほか、消火器の有効期限・配置・掲示板を確認している。 ▶ 「防犯協会」が発信している防犯情報を窓口連絡簿に記載し、運営委員会で共有している。 ▶ 最終退場者が戸締り、チェックシートの管理、夜間休館時警備をセットしている。 ▶ 運営委員の中には自主防災会や消防団に所属して専門知識を持っている方が複数人いる。
<p>防火の管理</p>	<p>防火の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 選任防火管理者を住民総会や運営委員会で報告・紹介している。 ▶ 防災訓練では、消火器の使用訓練を実施している。 ▶ 最終退場者がガスの元栓閉め、電気の消灯確認等、チェックシートに基づき施設管理している。
<p>備品の管理</p>	<p>備品の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 備品購入ごとに備品台帳に登録している。 ▶ 事業実施の際に備品数の確認・点検を実施している。 ▶ 工事により事務室内のレイアウトが変更されていたため、窓口担当者が対応できるように書類や文具等の収納場所一覧表を作成した。 ▶ 今後は備品に備品シールを貼って管理を行うことを予定している。

42. 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※現在、調整中